



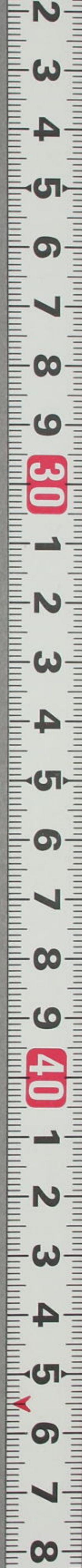
利用論

澀谷啓藏譯

上

和装本

口仁
618
1



英國彌爾氏原著
日本澀谷啟藏譯

利用論

明治十三年三月開雕

西曆一千九百零六年三月開雕

序

中子曰。物無不用。而用與不用。利與不利。則存乎人。考其用物之主乎。金銀通寶者。民用之最便利者也。然倘使無知之少年。用之則或迷溺酒色。或賭博蕩產。驕傲之人。主用之。則出師征遠。草菅人命。禍蔓宗社。宋真宗奉三司使陳恕

門 4
號 618
卷 1

具中外錢穀大數以聞。怒終不進。真宗命執政詰之。怒曰：上富於春秋。若知府庫之克溢，恐生傷心。善乎！日耳曼理學者之言曰：人之凶禍，未有甚于愚而多財者也。故知均是財也，智用之則利，愚用之則不利。故曰：利用存乎人。中子曰：物之利用，有因人之地位而變者。貪污之吏，利重稅而

良民則苦之。文明之民，利自由而暴君則惡之。南人之阻逆風者，北人之乘順風也。輸者之失利者，贏者之得利者也。又有因時勢而變者。太陽沒西，而燭火有光。金風撼林，而團扇無寵。砲鎗用，而弓矢不利。電線行，而楮膠生價。猶之人智進，予民權始為一理。真神之道，歎而萬

神之說廢。事物之利用。因地位時勢而
變。有如此者。中子曰。有小利。有大利。有
私利。有公利。有一國之利。有天下之利。租
稅也。刑法也。通小大公私之利者。也。戰鬪也。
和好也。通一國天下之利者。也。利用者。所以使
人生達於福祉安樂之物也。中子曰。無物而
不有用者。造物主之大經濟也。動物所

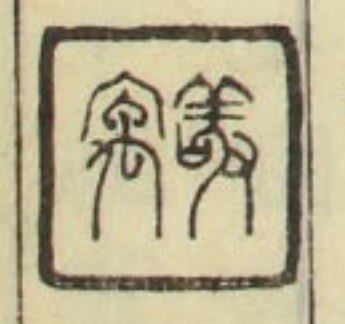
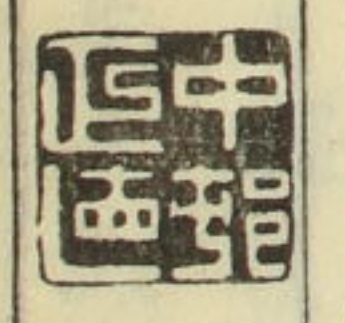
吐之氣。植物吸之。植物所出之氣。動物
資之。彼之無用者。此之利用也。交換養
育。如環無端。臭腐神奇。化而不窮。
蓋物無不有用。人特不知。以為無用耳。
小兒若多用者。然未有不為小兒而遽為
大人者。則汲小兒為無用乎。當其無
有有用之。用。汲室之虛空為有用乎。禍

災損害人每遇之必益其識量艱
難若痛人每受之必長其道德死
者人之所甚惡也然人之進修日新孽
孽不怠者以慮一旦溘露也視天夢
若無用者而赫々明々昭鑒不惑人有
所勸懲以身後為幽渺無知乃察
靈魂永存之理而善有賞罰可憑賴

者嗚乎宇宙間一切無用之物一經妙
用點化無不歸于有用利用之說至哉大
矣頃澗谷子發澤彌氏利用論成請
余詹言余乃書所見以與之不知彌
氏果首肯於九原之下乎否

明治十三年庚辰二月中村正直撰

序



限出十三半取以二月本林直懸
 乃後前前以以以以以以以以
 余言言言言言言言言言言言言
 是則則則則則則則則則則則則
 則則則則則則則則則則則則則
 則則則則則則則則則則則則則
 則則則則則則則則則則則則則

例言

一此書原本ハ英國學士我斯丟亞的彌爾ノ著ス所ニ
 シテ一千八百七十四年倫敦府ノ刊行ニ係ル
 一原名ユチリタリアニスム盖公利幸福ヲ以テ道德
 ノ目的ト爲ス所ノ教ヲ謂フ故ニ或ハ譯シテ利人
 之道ト曰ヒ或ハ利用之道ト曰フヘント雖モ共ニ
 未タ其義ヲ盡サス今姑ク利用ノ字ヲ以テ之ニ當
 ツ
 一原文議論高尚義理精微西籍中ニ在テ猶稀ニ見ル
 所トス余ノ謏劣ヲ以テ之ヲ邦文ニ譯スル固ヨリ
 其萬一ヲ髣髴スル能ハサルナリ是ヲ以テ此書章

句ノ間往々尋繹ヲ費スヘキ者アリ而シテ疑義アレハ則チ自註ヲ加ヘテ之ヲ詳説ス庶幾クハ此道ニ於テ小補ナキニアラスト云爾

明治十三年二月

譯者識

一頁自由主義ノ論ニ對シテ、
一頁自由主義ノ論ニ對シテ、
一頁自由主義ノ論ニ對シテ、
一頁自由主義ノ論ニ對シテ、
一頁自由主義ノ論ニ對シテ、
一頁自由主義ノ論ニ對シテ、
一頁自由主義ノ論ニ對シテ、

目次

上卷

第一章

総論

第二章

利用説ノ大旨ヲ論ス

第三章

利用理終極ノ主制ヲ論ス

下卷

第四章

利用理ノ領悟セラルヘキ徵證ヲ論ス

第五章

公義ト利用トノ連係ヲ論ス

第一章

第二章

第三章

土卷

百六

彌爾氏著 利用論卷之上

澀谷啓藏譯述

第一章

總論

凡ソ現今人智ノ諸形狀ヲ觀ルニ、其造詣ノ曾テ期ス
 ル所ニ乖キ、至要趣旨ノ想察猶極テ疑似ヲ免シサル
 者ハ、是非後或ハ正理ト譯ス、鑒別ノ論定ニ於ル進步ノ淺少
 ナルヨリ甚シキハナシ、蓋往昔理學初興ノ世ヨリシ
 テ、最大善即チ道德ノ基礎ニ關シタル議題ハ、既ニ想
 察者ノ心思ニ一大疑問ヲ與ヘ、天稟ノ才智ヲ之ニ鍾

利用論

卷之上

ノシメ、各自派ヲ分チ、流ヲ殊ニシ、互ニ激烈ノ戦闘ヲ
 開キ、而シテ二千餘年ノ久キヲ經、同一ノ爭議續行シ、
 學者猶往日ノ旗鼓ヲ執リテ變セス、乃チ識者及ヒ庸
 衆人民ニ至ルマテ、曾テ瑣格刺ガプロタゴラス希臘
 國古賢ノ說ヲ聽キ、偽學者ノ唱フル世俗ノ道德ニ反
 シテ、別ニ利用ノ論ヲ說キタルノ時ニ比シ、ホビヲシレモラリナシ伯拉多ノ
 記スル所ヲ以テ實話ニ據ル者トセバ、未タ其主旨ノ
 合同ニ近キヲ加フルヲ見サルナリ、此一節大意謂フ、
凡ソ事疑似決シ
 難キ者ハ、未タ曾テ是非ノ區別ノ如ク甚シキ
 者アラズ、是レ二千餘年以來ノ疑案ナリト
 諸學ノ原理ト稱スル者ニハ、大抵此ノ如キ紛雜未定
 異同ノ事アラサルナク、彼ノ最モ明確ト稱セラル、

數學ト雖モ、亦之ヲ免ル、能ハス、然レモ此事畢竟諸
 學主効ノ實價ヲ害スルニ非ス、蓋是レ何ノ學ヲ論セ
 ス、其詳說スル所ノ教道ハ、常ニ必シモ其原理ト名ツ
 クル者ヨリ生出シ、若クハ之ニ據信スルニ非サレハ
 ナリ、苟モ然ラザレバ、則チ凡ソ學ノ荒唐ニシテ、其主
 効ノ不完ナル者、算數ニ越ユルナカルヘシト雖モ、元
 來數學ノ明確ト稱セラル、所以者ハ、一モ曾テ傳
 フル所ノ原理ヨリ生スルヲナク、卓越ナル諸學士ノ
 定ムル所ニ隨ハハ、其原理ハ却テ假造ナルヲ猶英國
 律法ノ如ク、奧秘ナルヲ猶神學ノ如キ者トセリ、抑學
 問ノ原理トシテ承認セラレ、所ノ真旨ナル者ハ、實

此學ノ起因ニ對シ、性理上ノ判斷ヲ施シタル最後ノ結果ニ出テ、真旨ハ學ニ於ルハ基礎ノ家屋ニ於ルカ如キ、非、猶根柢ノ樹木ニ於ルカ如ク、即チ發掘暴露セラレズシテ、能ク其職ヲ爲ス者ト謂フヘキナリ、然ルニ所謂真旨ナル者、學問ニ於テハ、右ノ如ク一般理論ノ外ニ存スト雖モ、道德立法等ノ如キ實施ノ術ニ於テハ、大率之ニ及スルヲ常トス、顧フニ凡百ノ行為ハ、各其目的ヲ遂クルニ在リ、行為ノ規法ハ、各自ノ目的ニ從テ、其質性ヲ受ケサルヘカラス、故ニ今若シ一事ヲ討求スルニ當リ、第一ノ主眼ハ、其事ノ明瞭精詳ナル料曉ニ在リテ、其將來ノ推究ヲ為スニ在ラ

ス、而シテ夫ノ是非ノ試法ニ至リテハ、則チ亦唯其或ハ是或ハ非ナルヲ審定スル所以ノ方術ニシテ、既ニ之ヲ審定セシ者ノ後係ニ非サルナリ、大意謂フ學ノ可ラスト雖モ、能ク其根柢ト為ルヲ得ヘシ、然ルニ道理ノ如キ實施ノ術ニ至リテハ、必其基礎ト為ルノ原理ヲ明識セサズニテ、吾儕ヲシテ是非ヲ知ラシムヘキ天然ノ靈能アリトノ論アリ、然ルニ此論ニ據ルモ、亦終ニ礙難ヲ免ル、ヲ得ス、其故ハ斯ノ如キ道德稟性ノ存セルヲ、既ニ疑案ノ一タルノミナラス、乃チ世ノ自ラ理學ニ明ナリト稱シテ、此說ヲ信シタル者ト雖モ、此靈能ノ能ク是非ヲ分ツ、猶耳目ノ聲色ヲ辨スルカ如シトノ

思想ヲ爲ス能ハサレハナリ、蓋識者ノ名ヲ得タル諸人ノ説ニ從ヘハ、此靈能ハ唯心性判決ノ常理ヲ吾ニ供スル者ト爲シ、即チ推論ノ一端ニシテ、知覺ニ屬スルノ靈能ニ非ス、道德ノ無形局面ヲ占得スル者ニシテ、其全體ヲ包括スル者ニ非スト謂ヘリ、倫常ノ學ハ或譯ス、トニ二派アリ、一ヲ直悟者流ト曰ヒ、一ヲ推理者流ト曰フ、直悟者ノ律法ノ少ク可ラサルヲ主説セルハ、亦猶推理者ニ異ナラス、共ニ各人行爲ノ道德ハ、自然ニシテ之ニ合フニ非ス、能ク律法ニ遵フテ之ニ至ル者ナルヲ稱シ、而シテ二者ノ道德ノ律法ヲ言フ、大約相同シ、特ニ其證據及ヒ由テ來ル所ノ原因ヲ論

スルハ、則チ異ナレリ、直悟者云ク、道德ノ理ハ、判然知リ易ク、一タヒ其辭義ヲ解スレハ、復疑フ可キナレト、推理者云ク、是ト非トハ、信實ト欺詐トノ如ク、視察經驗ヲ待テ後ニ知ル可シト、然レモ二者ハ又等シク道德ハ理ヨリ生スルノ説ヲ持シ、所謂道德ノ學ナル者アルヲ固守ス、而ルニ此學ノ本タルヘキ諸原理ノ表目ヲ作ルノ甚少ク、諸原理ヲ約シテ大本ノ一原理ニ歸セシムルヲ謀ルノハ更ニ少ク、其據ト爲ス所ノ者ハ、唯庸常ナル道德ノ諸訓典ニ過キス、此諸訓典ノ大本トスヘキ者ハ、則チ或ル普通ノ理ヲ以テ之ニ充テ、其理タルヤ、却テ諸訓典ノ有力ナルニ及ハス、且公衆

ノ承允ヲ得ヘカラサル者タリ、之ヲ要スルニ、二者ノ
 説ヲ助ケント欲セハ、須ラク道德ノ根基ト爲ルノ一
 原理無カルヘカラス、若シ其原理數箇ナレハ、之ヲ統
 フルノ主法無カルヘカラス、而シテ各種ノ理相抵觸
 スルニ當リテ、能ク之ヲ決スヘキノ一原理ハ、必較著
 ナラサル可ラサルナリ、
 此原理缺失ノ弊害ハ、實施ニ於テ幾許ノ輕減アルヤ、
 又人類道德ノ信用ハ、終極ノ定法ヲ明認スルヲ能ハ
 サルニ因リテ、幾許ノ壞廢ヲ蒙ルヤ、之ヲ講究セント
 欲セハ、須ラク詳ニ古今ノ倫常教道ヲ商較批評セサ
 ルヘカラス、然レモ此ニ容易ニ説クヘキ者アリ、即チ

道德信用ノ能ク固定成立スルヲ得ル所以ハ、未夕世
 人ノ知道ヲ經サル定法アリテ、隱然其化ヲ被ルニ因
 ルノ一事ナリ、夫レ明認原理ノ存セサルハ、倫常學ヲ
 シテ諸人ノ意見ヲ修善スルノ嚮導ト爲ル能ハサラ
 シム、而カルニ此意見ナル者ハ、元其向背從違共ニ大
 ニ各自ノ幸福ニ関スル者ノ爲ニ動カサル、ヲ以テ、
 所謂利用説即チベンサム氏英國ノ碩儒ニシテ、一千
 二年一千八百三十ノ名ケテ最大幸福ノ理ト爲ス所ノ
 者ハ、最モ其説ヲ非斥スル者ト雖モ、亦之ヲ以テ道德
 諸教ノ大分ヲ占ムル者ト爲シ、而シテ縱令認テ道德
 ノ原職分ノ本ト爲スヲ好マサルモ、幸福ニ関セル行

爲ノ諸教說中ニ在テ殊ニ實着卓絶ナルヲ拒ムノ
 學派ハ未曾テ之レアラサルナリ、此ニ更ニ一步ヲ進
 メ、道德論者ニ對シテ、利用論ノ已ム可ラサル所以ヲ
 述ニ、固ヨリ此等諸論者ヲ批評スルハ、今日ノ主意ニ
 非サレズ、其有名ノ一人康カント的カント氏カント普魯西國ノ著書メ
 タフイジツクス、ヲフ、エチツクス心理學、倫常ノ論說ニ
 至リテハ、解明ノ次之ニ言及セサル能ハス、蓋此人ノ
 學法ハ、永ク理學想察ノ史上ニ一銅標ヲ留ムル者ト
 爲シ、其論說中、道德職分ノ根元基礎トシテ普通ノ原
 理ヲ定ムルヲアリ、曰ク凡ソ行爲スル所ノ事ハ、一切
 ノ性靈物ラヒヨナルヒトイフ人ヒト類ヒトヲヨリ、取テ以テ律法トセラレハ、ニ足

ル者ヲ用ユヘシト、然レ康カント的カント氏ハ此誠規ヨリ道德
 ノ義務ヲ導カントシテ、却テ其自語撞着ノ事アルヲ
 知ラス、其故ハ性靈物ト雖モ、其甚不徳ナル舉措ノ規
 法ヲ取用セサルハ、唯理論上然ルヲ以テナリ、其理勢
 ニ於テ然ルニ非ス、原文ノ意、蓋以テ爲ラク、人ハ靈物ナ
 キハ、唯理論上ノ空想ニシテ、其實ハ或ハ不徳ヲ爲ス
 者、往々之アリト、故ニ今理論ト理勢トヲ以テ之ヲ分
 以、蓋康カント的カント氏言フ所ノ大意ハ、人類一般取テ以テ法ト
 スル所ノ者ハ、何人タリトモ、之ヲ非トスル者ナキ善
 行タルノ義ニ過キス、
 余ハ此ニ至リテ、復他ノ諸論ヲ説クヲナク、直ニ利用
 幸福說ノ解義價直、及ヒ其因テ以テ領悟セラレヘキ

徵證ニ關シテ叙述スル有ラントス、而シテ此ニ徵證ノ語ヲ用ユルハ、其語常用ノ意義ニ因ルニ非ス、蓋終極ノ目的ヲ論スルハ、大率直接ノ徵證ヲ爲シ難ク、即チ某事ハ善ナリト證スルハ、亦唯證ナクシテ善ト稱セラレタル他ノ一物ニ至ルノ方術ナルヲ舉テ之ヲ證スル者ニシテ、例之、醫術ハ健康ヲ導クヲ以テ、其善ナルヲ證スヘキモ、健康ハ何ヲ以テ善ナルヤニ至リテハ、則チ之ヲ證スルニ難ク、音樂ハ快樂ヲ生スルヲ以テ、其善ナルヲ證スヘキモ、快樂ハ何ヲ以テ善ナルヤニ至リテハ、則チ之ヲ證スルニ難キカ如シ、故ニ若シ此說ニ從ヒ、凡ソ事物ニハ證ナクシテ善ト稱セラ

レタル者ヲ包括スル統宗ノ概則アリテ、其他ハ何物ヲ以テ善ト稱スルモ、皆目的ヲ謂フニ非スニテ、單ニ方術ヲ謂フ者ナリト爲ストキハ、是レ概則ハ時ニ取捨ヲ免レサルヲ以テ、宜ク徵證アル諸物ノ主腦ト爲スヘカラサルニ似タリ、然リト雖モ、其取捨ハ元鹵莽隨意ヲ撰擇ニ屬スヘキニ非ス、且徵證ノ語タル、其意義更ニ廣濶ニシテ、本論并ニ其他理學ノ諸論ニ引用スヘキ者アリ、蓋主腦ハ必人類靈能ノ識別ヲ待チテ後ニ之ヲ知リ、一見能ク之ヲ辨スルニ由ナク、總テ教道ヲ可否スルニハ、須ラク因テ以テ心志ヲ決定スル所ノ思慮ナカルヘカラス、而シテ前ニ所謂徵證ノ語

ノ廣濶ナル意義トハ、則チ此思慮ヲ指ス者ト爲スナ
 リ、
 此思慮ナル者ノ本性ハ如何ナルヤ、其實地ニ適用ス
 ルノ模様ハ如何ナルヤ、及ヒ其利用說ノ概則ヲ取捨
 スルニハ、如何ナル性靈上ノ根據アルヤ、今之ヲ查明
 スヘキナリ、然レモ性靈上ノ取捨ヲ知ルニハ、元概則
 ヲ正解スルヲ以テ要ト爲ス、蓋尋常此概則ヲ説クノ
 不完ナルハ、其領會ヲ妨クルノ障礙ニシテ、若シ之ヲ
 シテ僅ニ其大謬ヲ除去セシムルモ、疑件ハ自ラ減シ、
 紛議ハ隨テ消スルヲ得ヘシ、故ニ余ハ利用定法ヲ可
 認スルニ當リテ用ユル所ノ根據ヲ論スルニ先チ、次

ニハ唯此教道ノ釋義ヲ爲シ、其當レル者ト當ラサル
 者トヲ辨別シ、以テ意義ノ誤解ヨリ起リ、若クハ之ニ
 連係シタル諸反論ヲ一掃スルヲ主トス、既ニ此ノ如
 ク論基ヲ定メタルヲ以テ、理學諸論ノ一ト稱スヘキ
 議題即チ前ニ謂フ所ノ性ニ関シ、心力ヲ殫スノ明解
 ニ至リテハ、尚之ヲ後章第三章ニ讓ルヘシ、
 第二章
 利用說ノ大旨ヲ論ス
 前章ノ總論ハ、蓋世上無識ノ輩、或ハ誤テ利用說ヲ以
 テ是非判定ノ試法ト爲シタル諸人ノ此語ヲ用ユル
 ハ、猶快樂ニ反對スル利用ノ如ク、尋常狹少ノ意義ニ

因ル者ナリト謂フ者アラシク恐レ之ニ對シテ述フ
 ル所ノ者ナリ、是ヲ以テ、利用説ニ及スル諸學士、偶僅
 ニ此誤解ノ徒ト其見ヲ同フスル者アルモ、固ヨリ既
 ニ之ヲ防カサル可ラス、而シテ其更ニ諸事快樂ヲ主
 トスルノ説ヲ爲シ、粗率ノ見ヲ持シ、以テ利用説ヲ駁
 スル者ニ至リテハ、其之ヲ防クテ最モ嚴ナラサル可
 ラス、亦識者ノ言ニ據レハ、此類ノ人、或ハ利用ノ語快
 樂ノ語ニ先ツトキハ、梗澀ニシテ行フ可ラス、快樂ノ
 語利用ノ語ニ先ツトキハ、放縱ニシテ行ヒ易キニ過
 ントノ論ヲ唱フル者アリト稱セリ、抑エビキユルス
 古昔雅典ニ住セシ理學者ニシテヨリベシサムニ至ル
 其年代少シク瑣格刺ニ後ル

マテ、苟モ利用説ヲ持セシ諸氏ノ此語ヲ用ユルヤ、舊
 ト快樂ニ及スル者ヲ謂フニ非スシテ、却テ痛苦ヲ免
 ル、トト快樂トヲ謂フハ、識者ノ知ル所ト爲シ、猶有
 用ト云ヘル語ハ、論快樂華飾等ノ語ニ及スルニ非スシ
 テ、却テ此意義ヲモ包含スルカ如シ、然ルニ世ノ新聞
 雜説等ノ記者ヲ論スルトナク、乃チ書冊ノ著者ニ至
 リテモ、亦常ニ淺陋ナル謬誤ニ陥リ、利用ノ語ヲ得テ、
 唯其字音ヲ知り、復其義ヲ省セス、概シテ快樂羨麗華
 飾遊嬉等ヲ却廢スルノ稱ト爲シ、又此語ハ此ノ如ク
 輕賤シテ之ヲ用ユルノ外、稍之ヲ禮貌シ、以テ細小ノ
 事及ヒ一時ノ快樂ニ優ル者ヲ謂フト為ス者アリ、右

ノ誤用ハ、世俗一般此語ヲ解スルノ常ニシテ、顧フニ後代猶之ヲ襲フ者アラン、然レモ苟モ此辱ヲ救フノ道ヲ得バ、彼ノ初テ此語ヲ提舉シ、其後多年ノ間、派別ノ稱號ニ類スルヲ嫌ヒテ之ヲ廢棄セシ諸人ニ至リテモ、應ニ復之ヲ用ユルノ意アルヘキナリ、利用即チ最大幸福ノ理ヲ以テ、道德ノ基礎ト爲ス所ノ典經ハ、凡ソ行為ハ幸福ヲ進ムルニ隨テ是トシ、幸福ニ非サル者ヲ生スルニ隨テ非トスルノ旨ヲ説ケリ、幸福トハ快樂アリテ痛苦ナキヲ謂ヒ、不幸トハ痛苦アリテ快樂ナキヲ謂フ、而シテ此ニ理論ニ因テ設ケラレタル^{モラリス}道德定法^{シテ}利用ノ明解ヲ爲スニ當リ、其他

更ニ論スヘキ者アリ、即チ此法ハ、各種ノ痛苦ト快樂トハ、思想中、如何ナル者ヲ包含スルヤ、又其疑議ヲ受クルハ、幾許ナルヤノ二件ナリ、然レモ此等第二着ノ講明ハ、曾テ此道德說ノ因テ原ク所ノ生命論ヲ搖カスニ足ラス、是レ快樂ノ事、痛苦ヲ免ル^{ゼイラフライフ}、ノ事ハ、目的^{シテ}願フヘキ者ニシテ、其餘許多ノ願フヘキ者ハ、(利用說及ヒ其他諸說ニモ此類多シ)唯其物ニ附着セ^ル快樂アルト、或ハ快樂ヲ進メ痛苦ヲ防クノ方術ナルトニ因テ願ハル、ニ過キサレハナリ、此ノ如キ生命論ハ、衆庶ヨリ以テ感覺志意ノ最モ尚フヘキ諸人ニ至ルマデ、之ヲシテ一齊ニ其舊染ノ忌

嫌心ヲ激セシメ、此輩ノ言ニ從ヘハ、人生ハ快樂ニ勝
リタル目的ナク、又之ヨリ善良ナル願欲志望ノ歸向
ナシトスルハ、極テ昇劣賤陋ノ事ナリトセリ、蓋是レ
此論ヲ以テ唯猪豚ニ適スルノ教道ト爲ス者ニシテ、
古昔ハエピキュルスノ徒ヲ蔑視シテ、之ニ比擬シ、乃
チ近代此教道ヲ奉スル者ニ至リテモ、亦偶日耳曼佛
蘭西英吉利諸國ノ攻撃者ヨリシテ、同一ノ比擬ヲ受
クルコトアリ、
エピキュルスノ教ヲ奉スル諸人ハ、此攻撃ヲ被ムル
ニ當リ、毎ニ之ニ答ヘテ云ク、人類ノ本性ヲ以テ低下
ノ物ト爲ス者ハ、吾等ニ在ラスシテ、却テ彼攻撃者ニ

在リ、何トナレハ、其攻撃ノ意タル、人類ヲ以テ猪豚ノ
受クヘキ快樂ノ外、又一ノ快樂ヲ受ケサル者トスレ
ハナリト、蓋攻撃者ノ説ヲシテ、果シテ其實ヲ得セシ
メバ、是レ快樂ノ原ハ、人類猪豚ニ通シテ、全ク相同シ
キ者ナレバ、一方ニ善ナル生命ノ規法ハ、亦他ノ一方
ニ於テモ善ナルヘキニ由リ、其言固ヨリ抗ス可ク不
且答ムヘキナシ、然ルニ獸畜ノ快樂ハ、本人類幸福ノ
念ヲ厭カシムルニ足ラザレバ、エピキュルスノ教ヲ
奉スル人ノ生命ヲ以テ獸畜ニ比スルヲ説ク、却テ其
甚タ低下ナルヲ見ルヘク、凡ソ人類ハ動物ノ諸欲ヨ
リハ、遙ニ高尚ナル靈能ヲ具シ、一夕ニ此靈能ヲ認ム

レハ己ノ心ヲ厭カシメサル者ヲ以テ快樂ト爲ス、
曾テ之レナキナリ、抑エヒキユルスノ教ヲ奉ル人
奉、利用入理、自初其關係、心法ヲ抽出スル、
亦過誤ナシト謂フ可ラス、此事ヲ完成セハ、
宜ク猶ス、トイフ、希臘國古昔ノ教、及ヒ、基督諸法
モ、包括ス、キヲ要ス、然レハ、キヨルス、生命論
ハ、固ヨリ曾テ心性感覺想像意見、快樂ヲ以テ體軀
ノ快樂ト獲レリト爲サ、此者ナク、唯尋常利用論者
ノ心性ノ快樂ヲ以テ體軀ノ快樂ニ優レリトスルハ、
其據ル所特ニ心性快樂ノ恒久安全、儉省等ノ事ニ止
リ、乃チ其内面ノ本真ヲ知ルニ非ス、テ、僅ニ皮相ノ

利益ヲ知ルニ過キス、今謂フ所ノ利用説者ハ、則チ之
ニ異ニシテ、既ニ此等ノ諸件ニ於テ、悉ク其情境ヲ熟
知シ、而シテ其全體ト與ニ、他ノ一端即チ高等ノ基礎
ト稱スル者、内面ノ謂フ本ヲ取レリ、夫レ或類ノ快樂ハ、他
類ノ快樂ニ比シ、更ニ願フ可ク貴ム可キ者アルノ實
ヲ認ムルハ、利用ノ理ト並ヒ行ハレテ相悖ラス、且世
間ノ事物ヲ估較スルニハ、其品質ト斤量トヲ併論ス
ルヲ常ト爲シ、獨快樂ノ估較ニ至リテハ、則チ斤量ニ
止マルヘシト謂フハ、豈ニ其當ヲ得タリトセンヤ、
或人若シ快樂ノ品質ノ差異トハ、何ノ義ナルヤ、一類
ノ快樂ハ、其斤量ノ輕重ニ拘ラス、他類ノ快樂ヨリハ

更ニ貴ムヘキノ理、何ニ原クヤト、問フ者アラハ、余ハ
之ニ答フル、唯左ノ數言アルノミ、曰ク、兩個ノ快樂ノ
中、若シ曾テ其彼此雙方ノ經驗ヲ具シタル諸人が、必
シモ道德職分ノ感覺ヲ俟タスシテ、判然ノ撰擇ヲ與
ヘタル一個アラハ、此一個ハ即チ多ク願フ可キノ快
樂ナリ、曰ク、兩個中一個ノ快樂、若シ其彼此雙方ヲ熟
知シタル人ニ因テ、他ノ一個ノ快樂ノ上ニ置カレ、綴
令其^意ノ事多キヲ知ルモ、寧之ヲ撰擇シ、而シテ其
受クヘキ他ノ一個ノ快樂ノ分量更ニ多キ者アルカ
爲ニ之ヲ放棄セサルニ至ルトキハ、此撰擇セラレタ
ル快樂ハ、實ニ品質ヲ以テ勝リタル者ニシテ、其品質

ハ遙ニ分量ノ上ニ出テ、之ヲ相比較スレバ、分量ハ復
タ論スルニ足ラザル者ト爲ス、實ニ至當ノ理ナリ
ト、
兩個ノ快樂ニ於テ、彼此ヲ論セス、齊ク之ヲ熟知シ、及
ヒ齊ク之ヲ估較享受スヘキノ人ハ、其高等ノ靈能ヲ
用ヒタル生存ノ模様ニ於テ、最良ノ撰擇ヲ爲ス、固
ヨリ論ヲ待タス、是ヲ以テ人類タル者ハ、獸畜快樂ノ
最多ヲ許スノ約ヲ爲スモ、變シテ賤陋ノ動物ト爲ル
ヲ欲スルヲナク、又才智アル者ハ、愚人ト爲ルヲ欲セ
ス、教育アル者ハ無學ト爲ルヲ欲セス、思性良心アル
者ハ、私欲昇下ノ人ト爲ルヲ欲セス、而シテ縱令之ニ

説クニ愚昧魯鈍詐惡ノ輩、却テ彼等ニ勝リタル足意
 アルヲ以テスルモ、亦之ヲ欲セサルヘシ、蓋彼等ハ此
 輩ト共ニ通有スル所ノ諸願欲ヲ完成充足スルカ爲
 ニ、己カ此輩ニ比スレハ多ク有スル所ノ美徳ヲ棄テ
 サル者ニシテ、偶之ヲ棄テント欲スル者アルモ、是レ
 唯一時極烈ノ不幸ニ遭ヒ、之ヲ避クルカ爲メ、已ムヲ
 得ス、暫ク自己ノ好ム所ニ反シ、此ヲ以テ彼ニ換フル
 ニ過キサルノミ、若シ夫レ其身ノ幸福ヲ欲スルヲ更
 ニ遠大ナル、高等靈能ノ人ニ至リテハ、下等性行ノ人
 ニ比スレハ、更ニ酷烈ナル慘害ニ遭ヒ、又數之ニ近ク
 ヘシ、然ルニ此人ハ縱令此等ノ禍アルモ、決シテ自ラ

下流ノ行ト爲ス所ノ者ニ陥ルヲ願ハサルナリ、吾儕
 ハ今此ノ苟モ願ハサル所以ノ心ニ就キ、聊カ之カ解
 説ヲ爲スアラントス、蓋其類大約數種ニ分レ、一ヲ於
 持ト曰フ、此ハ人類感覺ノ優劣高下ヲ論セズシテ、等
 シク付與セラルヘキ者ノ名ナリ、一ヲ自由獨立ノ愛
 ト曰フ、此ハストイテ派ノ人、是心ノ訓練ニ於テ、最モ
 効力アル方術ノ一ト爲セシ者ナリ、一ヲ勢力ノ愛ト
 曰ヒ、一ヲ興奮ノ愛ト曰フ、此兩者ハ共ニ是心ヲ誘導
 補助スル所ノ者ナリ、以上謂フ所ノ如クナレバ、其更
 ニ至當ナル名稱ニ至リテハ、榮譽ノ念、即チ是ニシテ
 此ハ諸人各種ノ形狀ヲ以テ之ヲ具シ、大抵其靈能ノ

高等ナルニ準シテ之ヲ増スヘキ者トシ、此念ノ強キ者ハ、之ヲ以テ其幸福中純全ノ一部ト爲シ、之ニ抵觸スル諸物ハ、一時ノ外、都テ其願フ所ト爲サ、ルニ至ル、而シテ或人若シ此ノ如キ撰擇ハ、幸福ヲ損滅シテ後ニ行フヲ得ヘク、優等ノ人ハ、同一ノ事態ニ於テ、毎ニ劣等ノ人ヨリハ幸福ナラスト爲ス者アラハ、是レ幸福ト足意ト人甚タ徑庭セルニ思想ヲ混同セル者ト謂フヘシ、故ニ凡ソ享福ノ才質低下ナル者ハ、充全ノ足意ヲ受クルノ際會ニ富ミ、天稟ノ器識高尚ナル者ハ、却テ世俗稱スル所ノ幸福ヲ受クルト甚タ完カラス、然レ此人ハ右ノ如キ歎乏ノ幸福ト雖モ、苟モ

堪ユヘキトキハ、則チ之ニ堪エ、而シテ世ノ此歎乏ヲ覺ラサル所ノ者ヲ恨ミス、特ニ自ラ此歎乏ニ因テ生スヘキ善事ヲ覺ラサルヲ恨ムノミ、之ヲ要スルニ、失意ノ人類トナルハ、足意ノ猪豚ト爲ルニ勝リ、失意ノ瑣格刺トナルハ、足意ノ愚夫ト爲ルニ勝ル者ニシテ、愚夫猪豚タル者、苟モ之ニ反スルノ意見ヲ操ルトアラハ、是レ唯自己一面ノ快樂ヲ知レルニ由リ、夫ノ人類ト瑣格刺トハ、則チ彼此兩面ノ快樂ヲ知レルナリ、論者又曰ク、高等ノ快樂ニ適セル人ト雖モ、時トシテ誘惑ノ爲メ、下等ノ快樂ヲ以テ之ニ換フル者鮮カラスト、然レ此言ヤ未タ以テ其高等快樂ノ本真ヲ貴

フノ情ヲ害スルニ足ラス、其故ハ人タル者ハ、元其質性ノ薄弱ナルカ爲メ、常ニ此事ハ價值少キ者ナリト知ルト雖モ、撰ミテ淺近ノ福祉ヲ取ル、比々之アレハナリ、特ニ體軀ノ快樂ト心性ノ快樂トノ間ニ於ルノミナラス、乃チ兩個ノ體軀快樂ノ間ニ至リテモ、亦此事アリテ、夫ノ健康ノ害ヲ顧ミスシテ、意欲ノ放逸ヲ行フ者ハ如キ、固ヨリ健康ノ之ヨリ勝リタル福祉ナルヲ熟知セサルニ非サルナリ、論者更ニ難シテ曰ク、凡ソ人ノ貴重ナル諸行ニ於ルヤ、少壯ノ熟好ヲ以テ始メ、年齒ノ進ムニ及レテ、怠惰私欲ニ溺ル、者多シト、然レモ是レ此不善變ヲ受ケタル人ハ、自ラ甘レ

シテ高等快樂ニ換ヘ、故ラニ下等快樂ヲ撰取セリト謂フヲ得ス、蓋此ノ如キ人ハ、專ラ其一樂ニ歸向スルノ前、既ニ他ノ一樂ヲ享クルニ適セサル者ト爲リタルナリ、顧フニ世ノ貴重ナル感覺ニ適スヘキ者ハ、殆レト柔嫩ナル草木ノ、當ニ傷殘ノ害ノミナラス、培養ノ缺乏ニ因ルモ、亦容易ニ枯死スルカ如ク、少壯ノ人多クハ其生活ノ地位ニ從テ、自ラ歸向スヘキ業務ト、交際スヘキ社會ト、此感覺ヲ養成スルニ便ナラサル者ナルニ因リ、速ニ壞滅ヲ被ルヲアリ、夫レ諸人ノ心性ノ趣味ヲ失ヒ、隨テ又優美ノ熱望ヲ失フ所以ノ者ハ、復之ヲ養フノ時機ヲ有セサルニ因リ、而シテ其

自ラ賤劣ノ快樂ニ耽ル所以ノ者ハ、則チ好テ之ヲ撰ムニ非ス、不幸ニシテ其接近スヘキ者、及ヒ享受ニ適スヘキ者、唯此快樂アルニ止マレハナリ、故ニ從來諸人兩種ノ快樂ヲ兼有セルトスル無効ノ試爲ニ於テ失敗セシ者ハ、多ク其例有リト雖モ、苟モ齊ク兩種ノ快樂ヲ識得スルノ人ニシテ、曾テ恬然怪マス、下等ノ快樂ヲ撰取スル者アリト謂フハ、豈ニ疑フ可キノ説ニ非スヤ、

余ハ以上ノ説明ナル判決ノ審案ハ、復タ之ヲ控告スル者アラサルヲ知レリ、是レ上節快樂ノ高下ヲ論スル者ナリ、宜シク解シテ、正今若シ道德上ノ屬質ト諭混合ノ文意ト爲ス

關係トヲ顧ミスシテ、單ニ二個ノ快樂ノ中、孰レカ最も高キ價值アルヤ、二個ノ生活方法ノ中、孰レカ最も感覺ヲ怡ハシムヘキヤノ疑問ヲ釋セント欲セハ、須ラク能ク此兩者ヲ熟知セル諸人ノ判決ニ因ルカ、或ハ此諸人ノ説異同アラハ、其中多數ノ人ノ判決ニ因リテ、最後ノ斷案ト爲サル可ラス、蓋快樂ノ斤量ノ疑問ト雖モ、此法ヲ捨テ、更ニ他ノ審廳アラサルヲ以テ、快樂ノ品質ヲ論スルニ至リテモ、亦宜ク此法ヲ用ヒテ猶豫セサルヘシ、總テ二個ノ痛苦ノ中、其孰レカ最も酷ナルヤ、二個ノ快樂ノ中、其孰レカ最も甚シキヤヲ決セントスルニハ、固ヨリ此各兩種ヲ熟知シ

タル諸人ノ撰擇ヲ除キ、更ニ何ノ方術カアラン、然ル
 ニ又許多ノ痛苦ハ其類盡ク同キニ非ス、許多ノ快樂
 ハ其類盡ク同キニ非ス、痛苦ノ快樂ニ於ケルハ、則チ
 大抵其類ヲ異ニセリ、今此等ノ諸物ニ就キ、一類ノ快
 樂ハ、一類ノ痛苦ヲ以テ、之ヲ買フニ足ルノ價値アル
 ヤ否ヤヲ決セントスルニ當リ、經驗者ノ感覺ト判決
 トヲ捨テ、將タ何ノ據ル所アラシヤ、是故ニ高等ノ靈
 能ヨリ生スル快樂ヲ以テ、之ニ反セル動物氣質ノ感
 受スヘキ快樂ニ比較シ、其斤量ノ間ハ、姑ク之ヲ措キ、
 品質ニ至リテハ、宜ク彼ヲ棄テ此ヲ撰ムヘシト説明
 スルトキト雖モ、此感覺判決ノ効力アルヘキハ、亦前

ニ異ナラサルナリ、
 右ノ要點ハ、人間舉措ノ規法トスヘキ利用即チ幸福
 ノ理ヲ説クニ當リ、正當ナル意會ノ一端ト思惟セラ
 ル、然ルニ此ニ一説アリ、曰ク、此事ハ利用ノ定法ヲ領
 取スルニ於テ決シテ必須ノ形狀ニ非ス、何トナレハ、
 利用ノ定法タルヤ、元主事者一己ハ最大幸福ハ爲ニ
 スルニ非ス、テ、専ラ公共幸福ハ最大ナル總計ヲ期
 スルニ在リ、且綴令貴重ナル品行ハ、其貴重ナルカ爲
 毎ニ幸福ナリト謂フヲ得ヘキモ、之ニ因リテ更ニ
 他人ヲシテ亦同ク幸福ナラシメ、宇内一般ヲシテ、大
 ニ其利ヲ享ケシムルヲ能ハサレハナリ、故ニ各人偶

他人ノ貴重ナル品行ニ因リテ、其利澤ヲ被リ、自己ノ幸福ハ、即チ唯此利澤ヨリ生スルヲ有リト雖モ、利用説ナル者ハ、特ニ一般ニ品行ハ貴重ヲ修良スルヲ待チ、初テ其目的ニ達スルヲ得ハ、シト、此一説ノ言蓋利用説ノ背理ヲ説ク、此末段ノ如ク空疎ナル稱道ハ、別ニ答駁ヲ煩スヲ用ヒサルヘシ、

前ニ論スル所ノ最大幸福ノ理ニ從フトキハ、其終極ノ目的、即チ之ニ關シ更ニ他ノ願フヘキ諸物ヲ要スル所ノ者ハ、自己ノ福祉或ハ他人ノ福祉ヲ謀ルヲ別々ス、人ノ生存ヲシテ、其斤量ト品質トヲ併セ、兩者ヲシテ力メテ痛苦ニ遠カリ、力メテ快樂ニ富マシムル

ニ在リテ、其品質ノ試法、及ヒ斤量ニ對シテ品質ヲ測ルノ定規ハ、則チ或人ノ經驗ノ時日ト自知自察ノ慣習トヲ兼有シ、最モ能ク比較ノ方ヲ曉リタル者ノ撰擇ニ任スルノ志、初ヨリ全ク斤量ヲ棄ルニ非サルナリ、此論ハ利用ノ説ニ據レハ、固ヨリ人間行為ノ目的ナルヲ以テ、須ラク亦人間ノ舉措ヲ裁制セル道德ノ定法ト爲サルヘカラス、而シテ能ク之ニ注意スレハ、上ニ記シタル如キ生存ノ道モ、必最大ノ區域ヲ極メテ、人類ニ普及スルヲ得、當ニ是ノミナラス、理勢ノ至ル所、亦生物ノ庶類ニ達スルヲアルヘキナリ、然リト雖モ、此教道ニ對シ、更ニ一種ノ駁論者ヲ出セ

リ、此論者ハ第一ニ幸福ハ終ニ達ス可ラサル者ナルヲ以テ、人類生活行為ノ適理志向ニ非カル旨ヲ言ヒ、且謾辭ノ問ヲ設ケテ、曰ク汝ハ幸福ヲ得ハキ何等ノ權ヲ有スルヤト、ミストル、カルリール氏蘇格蘭ノ大千七百九十五年ヲ以テハ、近コロ更ニ之ヲ附益シテ、曰ク汝ハ生存スルト雖モ、亦何等ノ權ヲ有スルヤト、論者ハ又次ニ凡ソ人ハ幸福ヲキモ能ク事ヲ爲スヲ得ヘキト、及ヒ志向ノ貴重ナル人ハ、總テ此事ヲ了解スル者ニシテ、苟モ幸福屏除ノ道ヲ學フニ非サレハ、其貴重ヲ爲ス能ハサルヲ稱シ、此ノ如キノ教旨ヲ講習遵奉シ、以テ諸徳ノ本始要件ト爲セリ、

此駁論ノ第一説ヲシテ、果シテ能ク其立定ヲ鞏クセシメハ、恐ラクハ利用説ノ根據ヲ搖スニ至ルヘシ、蓋幸福ヲ以テ人類ノ決シテ有ス可ラサル者トスルトキハ、此幸福ニ達スルノ事ハ、固ヨリ道德若クハ適理舉措ノ目的ト爲ル能ハサレハナリ、然ルニ假令事情此ノ如キニ至ルモ、猶利用説ノ爲ニ辨スヘキ者アリ、其故ハ利用トハ單ニ幸福ヲ討求スルノミナラス、又不幸ヲ防禦緩解スルノ意ヲ含ムニ因リ、而シテ幸福ヲ求ムルノ事ハ、或ハ空想ニ屬スト謂フヘキモ、不幸ヲ防クノ事ニ至リテハ、人類タル者、苟モ生活ヲ以テ當然ノ事ト爲シ、ノヴァリス氏日耳曼國有名ノ曾テ

稱揚セル自殺ノ舉ニ與セサルノ間ハ、衆人皆之ニ對シテ最大ノ志向ト必須ノ需用トヲ有スヘシ、況ヤ人生ノ幸福ハ終ニ得ヘカラスト斷言スル者ハ、是レ戲謔ノ辭ニ非サレハ、則チ浮誇ノ言ナルヲヤ、顧フニ若シ幸福ヲ以テ極テ快樂ナル情感ノ永續ヲ指ス者トセハ、其之ヲ得ヘカラサルハ亦明白ナレド、元來快樂ノ情況タルヤ、唯頃刻各境ノ間ニ止リ、或ハ數時數日ニ渉ル者ト爲シ、則チ享福中偶發間作ノ閃火ニシテ、恒久不滅ノ光焰ニ非ス、此事ハ幸福ハ生活ノ目的ナルヲ教ユル學者モ、亦之ヲ疑ヘル諸人モ、同シク領知スル所ニシテ、此學者ノ所謂幸福ナル者ハ、終生ノ

耽樂ヲ指スニ非ス、其指ス所ハ唯僅少至短ハ痛苦ト、許多各種快樂トヲ以テ、其生存ヲ爲シ、自勤ハカク以テ被勤カカニ勝テ、而シテ人生不應ニ賦與セラルヘキ者トシ、ハ多ク期望セカルヲ以テ、其全體ハ基礎ト爲ス者ニアリ、其止然リ、故ニ諸人ノ此般ノ生活ヲ得ヘキ好運ヲ遭ヘル者ハ、之ニ幸福ノ名ヲ下スモ、敢テ誣言ニ非ズ、而シテ今日雖モ亦其一生中ハ大分ニ於テ之ヲ占有スル者頗ル多ク、特ニ現時ノ如キ愁慘ナル教育ト世態トハ、則チ衆庶ニ此幸福ニ達スルヲ妨碍スル者ト爲スルニ足ル、然レモ、大體ニ駁論者ハ、人類タル者既ニ幸福ヲ以テ生活ノ目的ト

爲スヘキヲ教ヘラレ、上ニ言フカ如キ淡泊ナル福分
ヲ以テ足意スヘキヤト疑フヘシ、然レモ人類ノ大數
ハ猶之ヨリ少キ福分ヲ以テ足意スル者アリ、蓋足意
生活ハ全體ハ分テ二質ト爲シ、一ヲ寧靜ト曰ヒ、一ヲ
興奮ト曰フ、此二質ハ共ニ其志向ヲ遂クルニ足ル者
ニシテ、即チ寧靜ノ質多キ者ハ、至少ハ快樂ヲ以テ、之
ニ厭足スルヲ能クシ、興奮ノ質多キ者ハ、至多ノ痛苦
ニ遭テ、之ヲ緩解スルヲ能クス、而シテ今庶民ヲシテ
此二質ヲ兼有セシメントスルモ、亦決シテ固着ノ難
事アルニ非ス、是レ二質ハ天然相依ル者ニシテ、其一
ヲ擴張スレハ、必他ノ一ノ地歩ヲ爲シテ、之カ情願ヲ

發動シ、到底兩立セサル者ニ非サレハナリ、是ノ以テ、
宴息ノ後ニ至リテ、興奮ヲ思ハサル者ハ、常ニ怠惰ヲ
積テ不徳ニ至ルノ人ニ出テ、興奮ヨリ生スル寧靜ノ
快樂ハ、實ニ寧靜ニ先ダテル興奮ノ多少ニ準スルヲ
知ラズシテ、却テ之ヲ以テ頑鈍無味ナリト爲ス者ハ、
常ニ興奮ヲ視ルヲ疾病ノ如クスルノ人ニ出ツ、抑亦
人其外形ニ於テハ、頗ル好運ヲ得ルト雖モ、一生ノ中、
絶テ貴重ナル充全ノ享福ヲ尋得セサル者アリ、是レ
其因毎ニ自己ノ外、更ニ他人ニ注意セサルニ由ル、夫
レ自己ノ熱好ノ意向ヲ遺シ、或ハ殊ニ人類総合ノ利益
ヲ以テ、濟衆ノ感覺ヲ修善スルノ人ハ、死亡ノ夕ニ至

リテ、猶生活中ノ利益ヲ存スルヲ、恰モ少壯強剛ノ時
ノ如シト雖モ、彼ノ公衆ト獨自トノ熱好ヲ具セサル
人ハ、生活ノ感化多ク縮小シ、私己ノ利益一切停息ス
ハキ死期ノ近クニ至リテハ、其價全ク消滅スルナリ、
又私欲ニ次キ、生活ヲシテ足意ヲ得セシメサル所以
ノ主因ハ、心性修善ノ缺乏即チ是ニシテ、此修善ノ志
理學者ノ謂フ所ノ者ニ非ス、唯智識ノ諸源ヲ開通セ
ラレ、稍好ク其靈能ヲ施用スルヲ教導セラレタル
心志ヲ謂フナル者ハ、之ヲ圍繞スル庶物ニ就テ、無盡
ナル利益ハ諸源ヲ查出スルヲ、或ハ天工ハ實物ニ於
テシ、或ハ術藝ハ成功ニ於テシ、或ハ詩賦ハ想像歴史

ハ事故ニ於テシ、其他人間既往現今ハ諸件及ヒ將來
ハ光景ニ於ルモ、亦之ヲ查出セカルナシ、顧フニ世ノ
漠然之ヲ省セス、又其千分ノ一ヲモ究メサル者ハ、特
ニ初ヨリ此等ノ諸物ニ就テ、道德ノ利益ヲ求ムルヲ
ナク、唯以テ好奇ノ心ヲ厭カシムルノ人ノミ然リト
スルナリ、
凡ソ此等觀想ノ諸物ニ因テ、智識上ノ公益ヲ與フヘ
キ心性修善ノ事ヲ以テ、開化國ニ生レタル各人ノ本
分ニ非ストスルハ、固ヨリ理ニ於テ有ル可ラサルノ
言ニシテ、又人類ヲ以テ唯昇陞ナル獨自ニ關スル者
ノ外、一切ノ感覺注意ヲ具セサル私心自愛者ノ類ナ

リトスルモ亦等シク據ルニ足ラストス蓋現今ト雖
モ遙ニ之ニ優リタル行事ハ往々跡ヲ絶クテ以テ人
性ノ成立スル所以ノ大例ヲ知ルハク総テ眞實ナル
自己ノ熱好ト懇誠ナル濟衆ノ公益トハ各人厚薄ノ
差アルモ苟モ正直ヲ以テ成長セル者ハ均シク之ヲ
爲スヲ得ヘキナリ抑此應分ノ道徳才智ノ諸要件ヲ
具スルノ人ハ斯ノ如ク公益ヲ資ケ福利ヲ享ケ且改
新更革スヘキノ世ニ處シ實ニ羨ム可キノ生存ヲ爲
スニ適シ而シテ此人ハ苟モ弊惡ノ律法他人ノ掣肘
ノ爲ニ己ノ達スヘキ幸福諸源ヲ用ユルノ自由ヲ害
セラルニ非サレハ則チ其能ク生活ノ實禍ニシテ

體軀精神ノ大害タル窮乏疾病及ヒ熱望ノ無効無價
失敗等ヲ免ルヲ得ルニ隨ヒ必此羨ム可キノ生存
ヲ爲スニ至ルヘシ是ヲ以テ世論疑案ノ伏線相ハ特
ニ此等ノ艱難ト闘争スルヲ存シ以爲ラク此諸難
ヲ全免スルハ稀有ノ好運ニシテ現今ニ於テハ到底
之ヲ排除スル能ハス猶其幾分ヲモ緩和スル能ハサ
ル者ナリト然リト雖モ苟モ其持論一時ノ思慮ヲ促
スヘキ識者ニ在テハ則チ未嘗テ世間ノ大禍大抵
除去スルハク人傳改新已マサレハ終ニ之ヲ以テ狭
少ノ限界ニ減縮セシムヘキヲ疑フ者アラズ即チ夫
ノ貧困ノ患ノ如キハ社會ノ智慧ト各人ノ明哲戒慎

トニ因テ、全ク之ヲ剝絶スヘク、外患ノ最モ眞頑ナル
疾病ノ如キ者ニ至リテモ、亦方今衛生品行ノ教育ハ、
邪毒感染ノ防禦宜キヲ得ルトニ因テ、大ニ其區域ヲ
狭クスルニ足リ、猶學術ノ進歩ハ、將來更ニ此敵ヲ全
服スルノ期約ヲ保セリ、故ニ諸事斯ノ如キ方向ニ由
テ止進セハ、當ニ吾儕ノ生命ヲ短縮スルノ禍ヲミサ
ラズ、亦應ニ其關係更ニ深クシテ、吾儕ノ幸福ヲ包括
セシ諸物ヲ奪却スルノ禍ヲモ輕減スルヲ得ハシ、是
レ命運ノ變ト、人世ノ形狀ニ關スル失望トニ於テ、此
等ノ禍ハ、每ニ輕忽ノ行爲、不經ノ願欲、及ヒ弊惡不完
ナル社會ノ規律ヨリ生スル者ナレハナリ、概シテ之

ヲ言ヘハ、凡ソ人類患苦ノ諸原ハ、亦人類ノ注意ト盡
カトニ因リ、其大部或ハ全部ニ勝ツヲ得ヘキ者ニシ
テ、其排除ハ、縱令甚タ遲緩ナルモ、即チ縱令克捷ヲ全
クスルノ前ニ當リ、數世ノ子孫既ニ攻撃中ニ死シ、而
シテ世間復心意智識ノ缺陷ナキ時ニ至リ、初テ之ヲ
爲スヲ得ヘキモ、苟モ是任ヲ受クヘキ豁達豪俠ナル
各人ニ至リテハ、其着力ノ淺少ナルヲ論セス、自ラ好
テ諸難ト闘争シ、決シテ私欲寬貸ノ使喚ニ屈スルコ
ト久、終ニ貴重ノ享福ヲ抽出スヘキナリ、
此ヨリシテ、前ニ駁論者ノ所謂幸福ナクシテ事ヲ爲
スヲ得ヘキノ情實ト、其然ル所以ノ職分トノ商權ニ

及フヘシ、此節ハ下ノ二節ヲ連子テ、前ノ駁論者ノ第一
 得ヘキ云々ノ論ヲ破ルカ爲ニ發スル者蓋幸福ヲク
 シテ能ク行フハ固ヨリ爲スヲ得ヘク、未夕野蠻ノ
 風ヲ全脱セサル現今ノ吾邦ニ在ルモ、自ラ好テ此事
 フ爲サル者ハ、二十人中十九人ノ比例ニ居リ、即チ
 人中ノ一ハ、必自ラ好勇士及ヒ義死人ノ如キハ、則
 チ數獨自ノ幸福ヨリモ更ニ尊重セル或物ノ爲ニ自
 ラ好テ之ヲ爲セリ、然ルニ此ノ或物トハ、何ヲ指セル
 ヤト問ハ、他人ノ幸福若クハ幸福ヲ導クノ諸要件
 ラ措テ更ニ何物カアラン、世ニ全ク自己幸福ノ股分
 ト、其際會トヲ顧ミサル者アルハ、實ニ貴重ノ行ナレ

凡畢竟此指軀ノ舉タル、亦宜ク或ル目的ノ爲ニスヘ
 キ者ニシテ、唯自己ヲ圖ルノ目的ニ非サルノ也、而シ
 テ人若シ此目的ハ幸福ニ在ルニ非スシテ、幸福ヨリ
 モ更ニ優リタル德行ニ在リト謂フ者アラハ、余ハ將
 ニ此人ニ問ハントス、曰ク、勇士義死人タル者、己ノ指
 軀ハ、果シテ他人ヲシテ己ノ如キ指軀ノ禍ヲ免カレ
 シムヘキラ信スルニ非スシテ、能ク自ラ此事ヲ爲ス
 ヘキヤ、又此人自己幸福ノ棄指ハ、邦國庶民ノ爲ニ義
 果ヲ生セスシテ、却テ彼等ノ命運ヲシテ、亦己ノ如ク
 ナラシメ、等シク幸福ヲ棄指セシ者ノ境遇ニ陥ラシ
 ムヘシト思ハト、誰カ復此事ヲ爲ス者アランヤト、是

故ニ能ク自己生活ノ享福ヲ推辭セル諸人ニ歸スヘキ名譽ハ、特ニ此棄指ニ因テ、世界幸福ノ共計ヲ增益スヘキトキニ限レリ、然ルニ世若シ他ノ志向ノ為ニ此事ヲ實行シ、或ハ之ヲ行フヲ稱道スル者アラハ、是レ其為ス所棄世^{アスセ}隱遁^{カク}ノ徒ニ比スルニ、曾テ優劣アルヲ見ス、而シテ此人ハ唯人類ノ能ク為スヲ得ヘキ者ノ證例ニシテ、決シテ人類ノ必為スヘキ者ノ儀範ト為スヲ得カルナリ、

凡ソ人自己ノ幸福ヲ棄指スルヲ以テ、最モ能ク他人ノ幸福ヲ資クルヲ得ヘキ者ハ、唯世態ノ甚々不完ナル形狀ノ時ニ在ルノミ、然ルニ世態ノ苟モ不完ナル

形狀ヲ免レサルノ間ハ、余ハ固ヨリ此棄指ヲ為スノ情願ヲ以テ、人間最高ノ德行ナリト確認スヘク、又一種奇怪ノ語法ヲ用ヒ、此ノ如キ時ニハ、幸福ナクシテ行ヒタル自信ノ能幹ハ、其終ニ達スルヲ得ヘキ幸福ヲ保スル最善ノ後圖ヲ為ス者ナリト謂フモ不可ナシ、蓋人ヲシテ生活ノ境遇ヲ超脱セシメ、縱令其命運際會ノ極惡ナルモ、終ニ之ヲ壓服スルヲ能ハサラシムル所以ノ者ハ、獨此自信ノ事アルノミニシテ、苟モ一タヒ此事ヲ覺レハ、則チ隨テ生活ノ禍害ヲ苦惱スルノ心ヲ免レ、恰モ羅馬帝國最惡ノ世ニ於ルストイク派諸人ノ如ク、能ク寧靜ヲ以テ己ノ為スヲ得ヘキ

足意ノ諸源ヲ修善シ、復其永續ノ定マラサルト、末路
サキニシテノ避ケ難キトニ關セサルヘキナリ、
 今利用説者ヲシテ、亦ストイク派及ヒトランセンデ
 ンタリストト派康的氏ノ教ヲ奉シ超妙ノ為ス所ノ如
 深遠ノ道理ヲ講スル者ク、其己ニ屬スル所ノ特有トシテ、自家專信ノ道德ヲ
 主唱スルヲ遂ケシメヨ、夫レ利用説者ノ所謂道德ハ
 固ヨリ人類タル者、他人ノ福祉ノ為ニ、自己ノ最大福
 祉ヲ棄指スルノ力ヲ認可セサルニ非ス、唯直ニ指軀
 ヲ以テ善事トスルヲ許允セサルナリ、故ニ均シク之
 レ指軀ナリ、然レモ其幸福ノ共計ヲ增益セス、又之ヲ
 增益スルノ念ナキ者ハ、徒ニ自ラ害スルノ指軀ナリ

トシ而シテ其稱揚スル所ノ者ハ、特ニ總體ノ人類ノ
 為ニ謀ルト、總體ノ利益ニ因テ設置セラレタル限界
 中ニ在リテ、各人ノ為ニ謀ルトヲ論スルコトナク、概シ
 テ他人ノ幸福、若クハ之ヲ進ムルノ方術ニ其身ヲ致
 スニ在ルノミ、
 余ハ此ニ至リ、前ニ利用説ヲ攻撃セシ諸人ノ言ニ、凡
 ソ舉措ノ當ヲ得ルコトニ關シテ利用ノ定法ト爲スハ
 キ幸福トハ、主事者自己ノ幸福ニ非スシテ、專ラ公衆
 ノ幸福ヲ指ス者ナリト認メタルノ未タ全ク正理ト
 爲ス可ラサルコトヲ再論スハシ、蓋主事者自己ノ幸福
 ト、他人ノ幸福トノ間ニ就テハ、利用説ハ、公平寛恕ナ

ル倚觀者ノ如ク、嚴ニ其彼此ニ偏セサラントテ要シ、
 又吾儕ハ曾テナザレスノ耶穌ノ金言中ニ於テ、此教
 道ノ神髓ヲ讀ミシニ、其所謂己ノ人ニ施ス。己ノ人ニ
 人ノ己ニ施サントテ欲スル者ヲ以テス。ハク我カ隣
 人ヲ愛スルハ宜ク我ヲ愛スルカ如クス。ヘシトハ、即
 チ利用道德ノ極功ヲ言フ者ナリトス、抑此極功ニ進
 入スル所以ノ方術ニハ、須ラク二件ノ事アルヘク、其
 第一ハ、律法詁世態トノ能ク各人ノ利益(幸福)ハ普通
 ノ語ニ之ヲ利益ト云フヲシテ、カクテ総合ノ利益ニ
 協同セシムヘキヲ、第二ハ、人類ノ品行上ニ絶大ノ勢
 カヲ有シタル教育言論ノ能ク此勢力ヲ用ヒテ、各人

ノ心志ヲ制シ、之ヲシテ自己ノ幸福ト、総合ノ福祉、殊
 ニ之ニ關シタル動靜云爲百般舉措ノ實施トノ間ニ、
 固結ノ連係アルヲ確知セシムヘキヲナリ、洵ニ此ノ
 如クナレハ、人ハ帝ニ公衆ノ福祉ニ反シタル舉措ハ、
 自己ノ幸福ト並ヒ行ハレサルヲ領知スルノミナ
 ラス、更ニ又公衆ノ福祉ヲ增高スル直進ノ氣象ハ、各
 人行爲ノ常念ト爲リ、之ニ追隨スル意見ハ、其知覺中
 ニ於テ、濶大ノ地步ヲ占ムルニ至ルヘシ、故ニ若シ利
 用説ノ道德ヲ謗ル者ヲシテ、一旦其胸中ニ此説ノ真
 性ヲ描出セシムルトキハ、識ラス彼等ハ他ノ道德説
 ノ專有セシ如何ナル名譽ヲ以テ、利用説ノ具スル能

ハサル所ノ者ト謂フヤ、他ノ道德説ハ、人性ノ如何ナル最義最高ノ開達ヲ助クヘシトスルヤ、又他ノ道德説ハ、利用説ノ及フ能ハサル如何ナル行為ノ根基ニ據リテ、其教旨ニ實力ヲ與ヘタリトスルヤ、然リト雖モ、利用説ノ駁論者ハ、又一概ニ此説ヲ賤蔑スル者トシテ、之ヲ罪スルヲ得ス、却テ中ニハ其公平ナル面目ノ正意ヲ領スルニ庶幾キ者アリテ、此人ハ或ハ此定法ヲ非議スルニ過高ニシテ人情ニ適セサルヲ以テシ、謂ヘラク、衆人ニ期スルニ其常ニ社會公衆ノ利益ヲ增高スルノ奮勵心ニ依リテ事ヲ行フヘキヲ以テスルハ、甚タ強迫ニ過キタリト、然レモ是レ

亦道德定法ノ真旨ヲ誤リ行為ノ規法ト其意思トヲ混同スル者ト謂フヘシ、蓋吾儕ノ職分ハ何物ナルヤ、及ヒ如何ナル試法ニ因テ之ヲ知得スヘキヤヲ教ユルハ、固ヨリ倫常學ノ本務ナレモ、諸派ノ倫常學中、未タ曾テ一切ノ意思ヲシテ、總テ職分ノ感覺ニ出テシムヘキヲ望ム者アラズ、却テ其行為百分ノ九十九ノ多キ、盡ク他ノ意思ヨリ來ルモ、苟モ職分規法ノ之ヲ罪スルニ非サレハ、敢テ遽ニ以テ不正ト爲リ、ルヘク、猶利用説者ハ、凡ソ意思ナル者ハ、主事者ハ品位ニ關スルトアレモ、決シテ行為ハ德善ニ涉ルトナキハ、説ヲ執レルト、遙ニ他ノ諸派ノ學者ニ超ヘタレバ、前

ハ如キハ、誤解ヲ以テ利用說ヲ駁スルハ基礎ト爲ス
ハ、最モ不是ナルヲ免レズ、茲ニ意思ノ行爲ト相涉ラ
ル所以ノ例ヲ舉クルニ、路人ヲ沈水ノ中ヨリ拯フ
者ノ如キ、其意思ハ職分ヨリ出ツルモ、或ハ其勞ノ報
酬ヲ望ムニ出ツルモ、等ク徳善ノ正ヲ得タル者ト爲
シ、又己ヲ信スル朋友ヲ欺瞞スル者ノ如キハ、縱令其
主意ハ之ニ由テ更ニ大ナル義務ヲ盡スヘキ他ノ朋
友ニ服事スルニアルモ、却テ有罪ノ行ト爲ス等即チ
是ナリトス、然ルニ今若シ單ニ職分ノ意思ヨリ出テ、
道理ニ依遵スル所ノ行爲ニ就テ論ヲ立ルモ、之ヲ以
テ人民ハ宜ク宇内或ハ社會ノ如キ濶大ナル公衆ニ、

其志ヲ定着スヘキノ意ヲ會メリトスルハ、亦利用說
ノ心法ヲ誤會スル者ト謂フ可シ、顧フニ善良ナル行
爲ノ大半ハ、元世間ノ裨益ノ爲ニ非スシテ、唯獨自一
個ノ裨益ノ爲ニ起想セラレ、其獨自一個ノ裨益ハ、則
チ世間ノ福祉ヲ結成スル所以ノ實ト爲ル者ニシテ、
有徳者ノ思想ト雖モ、此等ノ情狀ニ於テハ、特ニ己ノ
關涉スル所ノ者ヲ裨益スルニ止リ、之カ爲ニ別ニ他
人ノ權利(即チ正經應得ノ冀望)ヲ害スルヲ無キヲ信
スルトキハ、敢テ妄ニ其外ニ出テサルナリ、故ニ幸福
ヲ積累スルハ、利用說ニ於テ固ヨリ德行上ノ意向ナ
レズ、或人ノ能ク廣濶ナル畛域ヲ以テ此事ヲ行フノ

カヲ具シ、公衆ノ惠人ト爲ルノ情狀ハ、千中ノ一ヲ除キ概シテ例外ノ事ナリトシ、而シテ公衆ノ利益ヲ謀ルハ、特ニ此情狀ニ於テスルノミニシテ、其他ハ、注心スル所、唯私己ノ利益、若クハ僅少人員ノ幸福ニ過キス、是ヲ以テ、居常前ノ如キ絶大ノ意向ニ傾注スルノ事ハ、総テ其行為ノ感化一般社會ニ普及スル所ノ人ニ在リテ、始テ之ヲ能クスヘキノミ、又此ニ行為ノ宜ク禁戒スヘキ者（アラスカ）（縱令特殊ノ關係ニ於テハ、裨益アリトモ、道德上ノ思慮ニ因テ、宜ク為スヘカラスト斷定セラル、者ヲ論セシニ、凡ソ行為ノ之ヲ一般ニ施セハ一般ニ害アルヘキ者タルコト、此ノ如キ行為ヲ禁

戒スルハ職分ノ本タルコトヲ覺ラサルハ、固ヨリ明哲ナル主事者ト稱ス可ラス、然レモ此論點ニ含有セラル公衆利益ヲ重シスルノ多少ニ至リテハ、則チ利用説者ノ要スル所、亦各派ノ道德説者ノ要スル所ニ過キス、是レ何レノ學派ニ在ルモ、顯然社會ニ有害ナル者ヲ禁戒スルヲ欲スルハ、其情総テ相齊シケレハナリ、上文ノ考察ハ、亦以テ利用ノ教道ヲ謗リ、道德定法ノ志向及ヒ是非ノ字ノ真義ヲ解スルコト、更ニ甚ク誤リタル、他ノ一説ヲ闡クニ足レリ、論者數謂ヘラク、利用説ハ、人ヲシテ刻薄無情ナラシメ、各人ニ對スヘキ道德ノ感覺ヲ瑟縮セシメ、又人ヲシテ唯行為結菓ノ梗

澀偏固ナル思慮ニ拘リ、復行為ノ由テ起ル所ノ品質ヲ以テ道德ト爲ス知ラサシムト、然ルニ若シ此言ヲシテ、利用說者ハ、行為ノ是非ヲ判決スルニ當リ、之ヲ行ヒシ人ノ品質ノ推度ヲ以テ、之ヲ移動スルヲ許サス、ト謂フノ意ナラシメハ、是レ啻ニ利用說ニ對スルノミナラス、總テ道德定法ヲ具シタル諸說ニ對スルノ訴難ナリト謂フヘシ、其故ハ何レノ倫常學ノ定法ヲ論セス、善人ニ因テ施サレタル行為ハ必善トシ、惡人ニ因テ施サレタル行為ハ必惡トシ、並ニ其人ノ温和剛勇慈惠ナルト否サルトニ由リテ、行為ノ善惡ヲ定ムヘシトスル者ハ、決シテ之アラサレハナ

リ、抑此等ノ考察ハ、本行為ノ估較ニ與カルニ非ス、特ニ人品ノ估較ニ於テ有益ナル者ニシテ、利用說ノ理論ト雖モ、亦未ダ必シモ行為ノ是非ノ外、更ニ吾儕ニ關スル他ノ物件アルノ事實ト並ヒ行ハレサルニアラス、但スモイシ派ノ諸人ニ至リテハ、大率言語ノ奇怪ナル誤用ヲ以テ、其學ノ常トシ、唯德行ヲ以テ及テ可ラサル者ナリト信シ、其餘ハ自ラ諸善以上ニ出シテヲ務メ、毎ニ好テ左ノ言ヲ爲シ、苟モ德行ヲ有スルノ人ハ、總テ其他ノ萬善ヲ具シ、此人ノニ獨リ富有美麗ニシテ且尊貴ナリト謂ヘリ、然レモ此類ノ要望ハ、吾カ利用ノ教道ニ於テハ、曾テ有徳ノ人ニ期スル下

ナク、所謂利用説者ハ、德行ノ外別ニ他ノ願フヘキ特
有リ品質トアリテ存スルヲ熟知シ、絶ハタ此等ノ
物ヲ尊重スルヲ好ミ、而シテ又正直ノ行為ハ、必シモ
徳善ノ心性ヲ謂フニ非ス、羞恥ノ行為ハ、却テ數、羨好
ノ品質ヨリ生スルヲモ覺悟セリ、故ニ此般ノ事、或
ハ其實ヲ得タルトキハ、利用説者ヲシテ、帝ニ行為ノ
估較ヲ變セシムルノミナラス、併セテ主事者ノ人品
ノ估較ヲ變セシメ、之ニ久クシテ、善良ナル心性ノ確
證ハ、善良ノ行為ナリトノ意念ヲ擲却シ、又其慕尚ノ
終ニ弊惡ノ舉措ヲ生スヘキ資稟ヲ以テ善良ト爲ス
ヲヲ嫌忌スルニ至ルヘシ、顧フニ此説タルヤ、利用説

者ヲシテ、諸民ノ愛好ヲ失ハシムヘキ者ナレトモ、愛好
ヲ失フノ事ハ、特ニ利用説者ニ止ラス、總テ謹嚴ヲ以
テ是非ノ區別ニ注意スル各人ハ、等シク之ヲ平分ス
ヘク、而シテ此謗ハ必シモ思慮アル利用説者ノ銳意
之ヲ防クヘキ所ノ者ニ非サルナリ。
論者ノ言ヲシテ、其意唯利用説者ハ、多クハ利用ノ定
法ニ因リテ推測セル行為ノ徳善ヲ視ルヲ甚タ高ク、
其他人類ヲシテ温和偉大ナラシムル所以ノ心性ノ
羨ニ至リテハ、則チ充分ノ敬重ヲ置カス、ト謂フニ過
キサラシメハ、是レ或ハ不可ナカルヘシ、蓋單ニ道徳
ノ感覺ヲ修善シテ、憐恕ノ情、術數ノ識ヲ修善セサル

ノ利用説者ハ、往々此誤謬ニ陥ルコアリテ、他ノ道德諸説者ト雖モ、或ハ之ニ類スル者アルヲ免レズ、然ルニ此諸説者ノ爲ニ回護スヘキ者ハ、亦利用説者ノ爲ニモ回護スヘキ者ト為シ、即チ兩者ノ爲ス所ニ於テ、若シ差錯ノ事アラハ、寧ロ各自ノ定法ヲ過信スルニ失スルヲ以テ優レリトスルナリ、今吾儕ノ實證スル所ヲ以テスレハ、利用説者ノ其定法ヲ用ユルニ寛嚴各其度ヲ異ニセルハ、猶他諸派ノ説者ニ異ナラス、或ハ彪力ビウリキ單シ清教シヨウキョウノ教徒ノ如ク、方正謹肅ナル者アリ、或ハ破戒狗情ハクキョウキョウジヨウノ人ヒト蓋カシ以テ清教徒ニ反シ、宗教ヲ信セザル者ナリ、如ク、放縱不檢ナル者アリ、然レモ其全體

ニ就テ之ヲ論スルトキハ、凡ハ道德ハ律法ヲ犯スハ舉措ヲ駐遏防禦スルトニ於テ、人類ハ宜ク有スヘキ所ハ利益ヲ率先提舉スルハ、教道ハ此ノ如キ犯法ニ抗シテ意見ノ註制ヲ定ムルヲ決シテ他ノ教道ニ下ラサルヘク、而シテ此道德ノ律法ヲ犯ス者ハ、何物ナルヤノ疑問ニ至リテハ、則チ古往今來、各種ノ道德定法ヲ認取セル諸説者、皆其論ヲ異ニセリト雖モ、斯ク所見ノ別異アルハ、全ク利用説者ノ初テ之ヲ世上ニ開キタルニ非スシテ、却テ此教道ハ之ヲ判定スヘキ容易明瞭ナル方法ヲ與ヘタル者ト謂フヘキナリ、○此ニ利用説ニ關スル普通ノ誤解猶數條アリ、其誤

謬タルヤ、重大著明ニシテ、誠實聰明ノ人ハ固ヨリ之
ニ陷ラザルヘシト雖モ、之ヲ掲記スルモ、亦敢テ無益
ナリトセス、其故ハ、凡ソ天稟俊秀ナル者ハ、或ハ偏私
ヲ固執シテ、意見ノ正理ヲ解スルヲ務ムルヲ甚タ少
ク、又諸民ハ自暴無學ノ缺典タルヲ知ルヲ更ニ甚タ
少ク、是ヲ以テ、倫常教道ノ庸俗ナル誤解、比々トシテ
高尚ノ理心性ノ學ヲ誇稱セル人ノ議論書冊ニ散見
スレハナリ、今其一ニヲ舉タルハ、吾儕ハ利用説ヲ謗
リテ蔑神ノ教道ナリト謂フ者アルヲ聞ク、頗ル少
シトセス、蓋此ノ如キ粗率ノ臆斷ニ對シテ、答辨ヲ下
スヲ要ストセハ、宜ク先ツ吾儕ノ上帝ノ道德心性ヲ

觀ルニ、如何ナル思想ヲ爲スカヲ論スヘシ、夫レ上帝
ハ己ノ創造物ノ幸福ヲ願ヘルヲ、曷ニ他ノ諸事ニ起
ヘ、而シテ此事ハ其創造ノ本意ナルニ非スヤ、然ラハ
則チ利用説ハ當ニ蔑神ノ教ニ非サルノニナラス、他
説ニ比スレハ、最モ虔敬ノ深キ者ト謂フ可キナリ、若
シ又謗者ノ言ヲシテ、利用説者ハ、上帝天啓ノ聖意ヲ
認テ、天啓ノ聖意トハ、基督ノ説キタル教ト名ツク、道
其他ノ教法ハ、則チ之ヲ自然ノ宗教ト名ツク、道
徳ノ最上律法ト爲スヲ肯ンセスト、意ナラシメハ、
余ハ之ニ答テ、上帝ノ純善純智ヲ信シタル利用説者
ハ、亦應ニ上帝ノ道德ノ主旨ヲ啓示セント考思セラ
ル、者ハ、必非常ニ利用ノ須要ヲ充ツルノ事ナルヘ

キヲ信スヘシト曰ハシノ三然ルニ利用家ニ非サル
 諸説者ハ、太率左ノ如キ所見ヲ持シ、謂ヘラク、基督ノ
 天啓ハ、元人類ヲシテ自ラ正理ヲ看破セシムルノ精
 神ヲ以テ、其心情腦力ニ開示スルカ爲ニ發シ、苟モ此
 正理ノ平常觀易キ者ニ非サルヨリハ、帝ニ之ニ告示
 スルノミナラス、必且之ヲ看破セシ者ヲ牽制シテ之
 ヲ行ハシメント欲スルニ至レリ、故ニ吾儕ノ倫常教
 道ヲ求ムルヤ、亦宜ク其着々注意務テ上帝ノ聖意ニ
 模倣スル者ニ依ルヘシト、顧フニ此所見ノ果シテ當
 ヲ得ルト否トハ、此ニ之ヲ議スルヲ用ヒス、何トナレ
 ハ、凡ソ宗教ノ自然ト天啓トヲ別タス、其倫常學ノ講

究ニ援助ヲ與フヘキハ、利用説者一於ルモ曾テ他ノ
 説者ニ於ルト少差アルコトナケレハナリ、是ヲ以テ利
 用説者ノ此援助ヲ藉リテ、或ル行爲ノ利害ヲ判スヘ
 キ上帝ノ證言ト爲スヲ得ルハ、亦猶他ノ説者ノ之ヲ
 藉リテ、其絶テ有用幸福ニ涉ラサル所ノ高遠ナル學
 法ノ表明ト爲スカフトク、同ク其權カヲ有スヘキナ
 リ。
 利用説ハ、又數不徳ノ教道ナリトシテ、汚辱セラル、
 ニアリ、即チ之ニ便宜ト云ヘル名ヲ付テ、此語ノ常用
 意義ノ道理ノ語ニ反對セル者ヲ以テ之ヲ目スル者
 是ナリ、元來便宜ノ語タルヤ、正理ノ語ト反對スルノ

意義ニ於テハ、毎ニ主事者一個ノ私利ニ順便ナル者ヲ指シ、例之宰臣タル者、己ノ地位ヲ保ツカ爲ニ其國ノ利益ヲ棄ツルトキノ如キヲ謂ヒ、又稍之ニ優ルノ意義ニ於テハ、唯淺近ノ欲望、苟且ノ志向ニ順便ニシテ、別ニ規法ニ恪遵スルノ順便、更ニ之ヨリ大ナル者アルヲ害スル者ヲ指セリ、右ノ意義ニ據レハ、此語ハ有用ト其科ヲ同クスルニ非スシテ、寧有害ノ類ト爲シ、即チ虚言ヲ語ルハ、一時ノ紛糾ヲ解キ、或ハ自他諸人接近ノ欲望ヲ遂クルニ於テ屢順便ナル者アリト稱スルトキノ如シ、然レモ凡ソ真實無妄ノ主旨ニ基クノ感覺ヲ修養スルハ、最モ有用ナル事件ト爲シ、此

感覺ノ孱弱ナルハ、最モ有害ナル事件ト爲シ、吾儕ノ舉措ハ常ニ此二者ニ隨テ變セサル可ラス、又信義ニ差ヲノ事ハ、縱令故意ニ出ツルニ非サルモ、多ク人言ノ誠ヲ傷フ者ト爲シ、此人言ヲ誠ナル者ハ、則チ帝ニ現時社會ノ安寧ヲ扶植スルノ主要ナル事ナラズ、若シ苟且之ヲ缺クシテハ、開明紳徳行ト云間幸福ノ大數ヲ統ツル諸物トテ退縮セシムルハ、一ニ非テ足敷サルハ、其ヲ以テ、吾儕ノ意思ハ非ク、総歩眼前ノ小利ヲ爲シ、此高尚ナル便宜ヲ規法ヲ壞ルハ、却テ便宜ニ非ス、自己若クハ他人ノ利便ヲ謀ルカ爲ニ、人々各自ノ語言ニ置キタル多少ノ信任ニ就キ、其美ヲ奪フ

テ其害ヲ蒙ラス等ノ事ヲ爲ス者ハ人民ノ最惡ナル
 仇敵ノ所業ヲ施ス者ナリト、以下公衆便宜ト稱スレ
ハ、單純ノ便宜ト稱スレ者抑信義ノ規法ハ、此ノ如ク尊
ハ、尋常ノ便宜ヲ指ス、嚴ナリト雖モ、猶例外ノ處置ナキ能ハス、是レ一切ノ
 道德說者ノ認ムル所ニシテ、其主要ナル者ヲ舉クレ
 ハ、或ル事實例之犯法者ノ報知、險害人ノ惡評等ノ如
 シ、初扣減スルヲ、能ク或人自己ヨリハ多ク他人ヲ謂
 フヲ救護シテ、重大不當ノ禍害ヲ免レシムヘキトキ、
 及ヒ其扣減ハ僅ニ敷説ニ因テ搖カサル、ニ止マル
トキ蓋未ダ深ク罪ヲ道ノ如キ實ニ之ニ屬セリ、然レ
トキ德ニ得サルヲ謂ス、此例例外ノ處置ヲシテ、安ニ區域ノ外ニ侵佔セシメ

ス、其信義ノ倚頼ヲ弱ムルノ弊ヲ少フセントスルニ
 ハ、亦預メ之ヲ講究シテ、其定限ヲ設ケサル可ラス、今
 利用說ノ理ヲ以テ、果シテ或ル事物ニ於テ善ナル者
 トセハ、此等ノ互ニ相抵觸セル兩利用ヲ秤量シテ、彼
 此ノ餘重アルヘキ境地ヲ畫定スルニ用ユルトモ、固
 ヲリ善ナラサル可ラサルナリ、
 利用說ノ防護者ハ、又屢左ノ如キ駁論ニ答辯セサル
 可ラス、曰ク凡ソ人ハ其行爲ノ前ニ於テ、或ル舉措ノ
 果シテ公同ノ幸福ニ影響スル何如ヲ推算計量スル
 ノ暇ナシト、嗚乎此言タルヤ、是レ或ル事件ヲ爲スヘ
 キ境遇ニ臨ミ、舊新兩約書ヲ通讀スルノ暇ナキヲ以

テ、基督教ニ因リテ、吾カ舉措ヲ指揮スルハ行ハル可
ラス、ト謂フ者ト、何ヲ以テ異ナラン、今之ニ答フルハ、
宜ク此ニ富足ノ暇アリテ、人類經歷ノ既往時日則チ
是ナリト謂フヲ以テスヘク、人類タル者ハ、此時日ノ
間ニ在リテ、經驗ニ因リ、自ラ行爲ノ傾向スル所ヲ學
ヒ、隨テ人生ノ智慧德行ヲモ識得スヘキナリ、然ルニ
諸人ノ稱スル所ヲ聞クニ、此經驗ノ初歩ハ、總テ從來
放擲セラレシヲ以テ、凡ソ人ハ他人ノ財產生命ヲ擾
ル^{即チ人ノ財産ヲ奪ヒ或ハ生ヲ誘惑セララルハノ}
時ニ至リ、初テ兇殺盜賊ノ事ハ、人類ノ幸福ニ害アル
ヤ否ヤト思量スヘシトスル者ノ如シ、余ノ所見ハ、則

チ之ニ反シ、以爲ラク、凡ソ人ハ此ノ如キ時ト雖モ、之
ヲ以テ甚タ決シ難キトトセスシテ、却テ何事ノ起ル
トモ、直ニ之ヲ斷スヘシト、又世間ノ説ニ、人若シ利用
ヲ以テ、道德ノ試法ト思量スル^{テス}ト一定セラレ、ト
モ、其何物ヲ以テ有用ト爲スノ事ニ至リテハ、終ニ一
定セザルヘク、且少者ニ教ヘ、律法言論ヲ以テ強制ス
ヘキ主旨ノ意見ニ就キ、復タ一ノ矩矱ヲ有セサルヘ
シ、ト謂フ者アレトモ、是レ亦無稽ノ臆度ニ過キス、盖
吾儕若シ倫常ノ定法ハ、世上癡獸ノ見、常ニ之ニ從フ
ヘキ者ト推度セハ、或ハ其功用ノ弊惡ナルヲ謂フニ
難カラズ、然ルニ或ル^{ハトモ}假設ノ法ニ就テ論スルモ、人類

タル者之ニ依ルノ際、或ル行爲ノ各自幸福ニ關セル効力ニ於テ、未ク曾テ己カ確信スル所ノ説ヲ得サル者アラス、此ノ如クシテ得ル所ノ諸説ハ、其更ニ善ナル者ヲ查明スルニ至ルマテハ、衆庶并ニ學者ノタメニ道德ノ規法ト爲ルヘシ、抑理學者ハ、今日ニ至リ、猶許多ノ事件ニ就テ、容易ニ此查明ヲ爲スヲ得ルヲ、現時所用ノ倫常例規ハ、決シテ神聖不拔ノ正理ニ非サルヲ、及ヒ人類ハ其行爲ノ公衆幸福ニ關セル効力ニ於テ學フヘキ者猶多キヲハ、固ヨリ余ノ之ヲ許允シ、且熱意之ヲ固守スル所ノ者ニシテ、利用ノ道理ニ出ツル推論ト雖モ、亦猶諸般實施術藝ノ條規ノコトク、

無限ノ改正ヲ爲スヲ得ヘク、人心ノ開進セル状態ニ隨テ、永ク行動シテ已マサルヘキナリ、然ルニ此道德ノ規法ヲ以テ、宜ク改正ヲ爲スヘキ者ナリトスルモ、自ラ一事ニ屬シ、全ク後發ノ諸則ニ超越シ、直ニ原理ニ據リテ、各人ノ行爲ヲ律スルヲ務ムヘトスルモ、亦自ラ一事ニ屬シ、原理ノ承認ヲ、未理ノ許允ト並ヒ行ハル可ラスト謂フハ、要スルニ奇怪ノ説ニシテ、譬事於今行旅人其教ラレハ、其終極達到ノ地ヲ以テスル雖モ、決シテ途上ノ路標境榜ノ用ヲ禁スルニ非サルカ如ク、夫ノ幸福ハ道德ノ目的指向ナリト稱説ニ至リテモ、亦此争賽ノ點ニハ、一道路ヲモ開ク可

ラス此ニ行ク人ハ、彼方面ヨリハ、寧ロ此方面ヲ取
ルヘキヲ教示セラル、口有ル可ラスト謂フニ非サ
ルヘシ、凡ソ此ノ如キ無稽ノ論ハ、人タル者、他ノ實施
事件ニ於テ、曾テ聽說セサル所ナルヲ以テ、利用説ノ
在者ニ就テハ、最モ之ヲ棄却セサル可ラス、夫レ世間
何人ヲ論セス、水手ハ航海曆ヲ推歩スルヲ待チテ之
ヲ爲スニ非サルヲ視テ、直ニ行船ノ術ハ天文學ニ原
カスト謂フ者ハ、一モ之アラス、是レ水手ハ固ヨリ性
靈動物ナルヲ以テ、能ク自然ノ推歩ヲ具シテ海ニ行
ク者ナレハ、一切ノ性靈動物ハ、亦自ラ其心中ニ於テ
尋常是非ノ鑒別ノミナラス、疑似決シ難キ智愚ノ鑒

別ヲモ備具シテ、人世ノ海ニ行ク、而シテ先見ノ人、類
ノ性タルノ間ハ、彼等ノ永ク此事ヲ行フヲ能クス
ルヲ推シテ知ルヘキナリ、故ニ凡ソ何物ヲ取リテ、道
徳ノ原理ト爲ストモ、必因テ以テ之ヲ適用スヘキノ
末理ヲ要シ、此末理ヲ假ラスレバ行フノ難キハ、道德
諸説ノ常ナレハ、特ニ其一説ニ於テ之ヲ用ユルヲ非
議スル能ハス、今若シ嚴重ノ論ヲ執リ、此ノ如キ末理
ハ決シテ之ヲ有ス可ラス、人ハ現今將來ヲ問ハス、生
活中ノ經驗ヨリシテ、普通ノ定論ヲ抽出スルヲアル
可ラスト謂フ者アラハ、余ハ之ヲ以テ、心性學ノ争訟
ニ於テ起ル所ノ背理ノ頂點ト爲スヘシ、

其餘利用説ニ反抗スルノ諸論ハ、多クハ天然人性ノ薄弱ナルヲ及ヒ良心アルノ人、其終身ノ進路ヲ定ムルニ當リ、必之ヲ掣肘スル疑難アルヲ稱シテ、口ニ藉ケリ、即チ其謂フ所ヲ聞クニ、曰ク利用説者ハ、道德規法ノ例外ノ處置ヲ以テ、自家專有ノ情事ト爲シ、若シ私欲ノ誘惑ヲ受クルトキハ、其規法ヲ壞リテ利用ヲ見ルヲ應ニ規法ニ遵フテ利用ヲ見ルヨリモ大ナルヘシト、反論者ノ言、此ニ止マル、嗚乎是レ獨リ利用説ヲ以テ、惡業ヲ爲スノ宥恕ト、自己ノ良心ヲ欺クノ方術トヲ與フルノ典經ナリトスルカ、何ソ思ハサルノ甚シキヤ、蓋此ノ如キノ弊ハ、相抵觸スルノ思慮ア

ルヲ以テ、道德上已ムヲ得サルノ事トセル一切ノ教道ニ於テハ、多ク之ヲ見ル所ニシテ、而カモ亦識者ノ信ヲ措ク所トシ、凡ソ舉措ノ規法人、其制作ヲシテ一モ例外ノ處置ヲ要セサラシムルヲ能ハサル、及ヒ行爲ノ物則シ、此ハ必永久遵守スヘク、彼ハ必永久非斥スヘシト一定スルノ甚ク難キハ、是レ其咎人事錯雜ノ勢ニ在リテ、決シテ典經ノ罪ニ非ス、故ニ何如ナル倫常ノ典經ニ於テモ、未曾テ特殊ノ狀況ニ適合セシムルタメ、主事者ノ責任ニ寬貸ヲ加ヘ、以テ其律法ノ嚴ヲ弛メサル者アラスシテ、各説或ハ此罅隙ヨリ、自欺ノ行、不正ノ論ヲ來スヲ免レス、又何如ナル道德ノ

教派ニ於テモ、未曾テ相抵觸セル職分情境ノ起ラサ
ル者アラサルナリ、此事ハ真成ノ疑難ニシテ、倫常ノ
理論ニ在テモ、諸人行爲ノ良心自制ニ在テモ、均シク
盤根錯節ト稱スヘク、而シテ能ク此疑難ニ捷ツ者ハ、
固ヨリ各人ノ才智德行ニ隨テ、其大小差異アリト雖
モ、然レモ亦此相抵觸セル權利義務ヲ裁スヘキ所以
ノ終極ノ定法ヲ有スル者ハ、此疑難ニ處スルノ能幹
ニ乏シカルヘシト謂フヲ得ス、今若シ利用ヲ以テ道
徳職分ノ終極ノ原由ナリトセハ、是レ職分ノ須要併
立セサルトキ、之ヲ決スルハ、必利用説ニ於テセサル
可ラサルナリ、抑此定法ノ適用ハ、頗ル容易ナラスト

雖モ、絶テ之ヲ具セサルニ比スレハ、甚タ其優レルヲ
見ル者ニシテ、他ノ諸教派ニ於テハ、道徳ノ諸法各自
獨立ノ權勢ヲ欲望シ、曾テ其間ニ介スヘキ普通ノ定
斷ナク、其他法ニ超ヘントスルノ欲望モ、據ル所僅ニ
假論ニ勝ルアルヲ以テ、苟モ利用説思量ノ冥々ノ感
化ニ因テ、決セラルハ、ニ非サレハ、人欲偏頗ノ行爲ニ
入ルノ自由門戸ヲ開クニ至ルヘシ、是故以テ、吾儕ハ
總テ末理ノ間ニ抵觸ノ情形アルトキハ、宜ク原理ニ
向テ之ヲ控告スヘキヲ要シ、而シテ凡ソ道徳職分ノ
情境ハ、曾テ末理ニ干連セサル者ナク、若シ偶一ノ之
ニ干連セサル者アルモ、是レ蓋道理ヲ認得スル人ノ

胸中ニ在テ、稀ニ存スルノ真疑團ト謂フヘキノ理
ニ于連セサル一職分トハ、蓋公義
ヲ謂フ、猶第五章ヲ參觀スヘシ

第三章

利用理終極ノ主制ヲ論ス

左ノ疑問ハ、屢起ル所ノ者ニシテ、或ル道德ノ定法ニ
關シテハ、殊ニ宜ク然ルハトス、曰ク其主制原語
ヨシハ、准行批准等ノ義ニシテ、此ニハ利用說ヲ
可決スル所ノ實力ヲ指セリ、今之ヲ主制ト譯ス、ハ何
物ナルヤ、之ニ從遵スヘキ意思ハ何物ナルヤ、其職分
ノ根元ハ何物ナルヤ、又何處ヨリ其約制力ヲ導キ來
ルヤト、蓋此問ハ他ノ諸說ヨリ、專ラ利用說ニ置キ
タル者ノ如ク、屢此說ノ道德ニ反抗スルノ形狀ヲ爲

セリト雖モ、其實ハ一切ノ定法ニ關シテ起ル者ナレ
ハ、之カ答辭ヲ設クル、亦道德論上須要ノ事ナリトス、
元來此問ノ由テ起ル所ハ、若シ或人一種ノ定法ヲ取
リ、其未タ慣用セサル所ノ基址ニ就テ、道德ヲ立定ス
ヘキヲ命セラルル時ニアリ、然ルニ彼ノ世俗慣
用ノ道德說ヲ觀ルニ、其教育ト言論トヲ以テ尊信セ
シ所ノ者ハ、徒ニ是ハ宜ク遵守スヘシトノ感覺ヲ以
テ人心ニ表現スルノ事物ニ過キス、是ヲ以テ或人此
道德說ハ、本世俗慣習ノ未タ看破スル能ハサル所ノ
道理ヨリ、其職分ヲ導キ來ル者ナルヲ信スヘシトノ
說ヲ聞カハ、此人ハ必之ヲ以テ奇怪ノ言ト爲スヘク、

其假定ノ推論ハ、根元ノ理論ニ比スレハ、約制ノ力却
 テ多ク、其全體ノ結構モ、所謂基址ナル者アルヨリハ、
 寧ロ之ナクシテ立ツノ堅牢ナルニ如カサルニ似タ
 リ、而シテ此人毎ニ自ラ謂テ曰ク、余ハ唯搶奪兇殺欺
 騙虚偽ノ事ヲ爲ス可ラサルノ責アリ、豈ニ亦公衆ノ
 幸福ヲ上進スルノ責アラシヤ、若シ余カ自己ノ幸福
 ヲシテ、他ノ或物ニ存セシメハ、余ハ何ヲ以テ、此ヲ捨
 テ、彼ヲ取ラサランヤト、
 道德性ノ本質ニ關シ、利用說ノ取ル所ノ見解、果シテ
 其當ヲ得タルトキハ、此ノ如キ疑難即チ前節ノ疑問ヲ謂フノ現
 出スルハ、道德心性ヲ作ルヘキ氣力ノ恒ニ道理ヲ執

持セルヲ、其後係ノ一事ニ於テ之ヲ執持スルニ異ナ
 ラサルノ時ニ至リテ、自ラ已ムヘク、即チ教育ノ改良
 ニ因リテ、邦國庶民ト同胞一體ナルノ感覺、深ク心性
 ニ根シ、基督ノ之ヲ期セシハ、蓋疑ヲ容レス、自己ノ良
 心ニ於テ、全ク天然ノ一質トナレルヲ、例之尋常ノ少
 年モ、猶罪業ノ恐懼ヲ知ルカ如クナルノ時是ナリ、然
 リト雖モ、右ノ疑難ハ、特ニ利用ノ教道ニ置クヘキニ
 非ス、苟モ道德說ヲ剖析シテ、之ヲ道理ニ推原スルノ
 各舉ニ於テハ、齊シク密着シテ離レサル者トシ、而シ
 テ其言タルヤ、因テ以テ之ヲ置キタル所ノ或說ノ如
 ク、既ニ道理ノ尊信ヲ以テ、人心ニ觀被スルノ深キ者

非サルヨリハ、多クハ之カ爲ニ、人心崇奉ノ一分ヲ
 褫脱セラル、ニ至ルヘキナリ、
 利用説ノ道理ハ、他ノ諸派道德説ニ屬セル一切ノ主
 制ヲ具セストノ緣由アル可ラス、蓋此主制ハ分ツテ
 二ト爲シ、一ヲ外形ト曰ヒ、一ヲ内面ト曰フ、外形ノ主
 制ハ、別ニ多言ヲ贅スルヲ要セス、顧フニ是レ邦國庶
 民并ニ造化主宰ノ恩惠ヲ冀ヒ、譴怒ヲ懼ル、ト、諸民
 ヲ憐恕親好シ、上帝ヲ信愛畏敬スルトノ情ニ原ツキ、
 以テ吾儕ヲシテ私欲ヲ棄テ、上帝ノ意ヲ奉行セシ
 ムル所ノ者ニ外ナラス、此等神人ヲ恭敬スル意思ノ
 利用説ノ道德ニ附着スルハ、他説ニ於ルカ如ク、完全

緊密ナル能ハサレノ理ハ、決シテ之アリサルナリ、而
 シテ其邦國庶民ニ關スルノ意思ハ、實由公衆智識人
 共計ニ準シテ進ムヲ保シ、久是レ公衆幸福ノ
 外、更ニ他ノ道德職分ノ基礎有ル所無キトヲ問ハス、
 總テ幸福ヲ願欲スル者ニシテ、自己ノ實行ハ、縱令不
 完ナルモ、其因テ以テ自己ノ幸福ヲ増進スルハ、思
 量セラレタリ、他人ノ己ニ對スル舉措ハ、願欲稱譽セ
 ルニ由リ、又敬神ニ關スルノ意思ハ、就テ論スルハ、凡
 ソハ人ハ衆庶ニ言ハシ、總テ上帝ヲ善良ニ對シテ、行
 フバキヲ信スル者ナレハ、夫ハ公衆幸福ノ開導ヲ以
 テ善行ハ本質鑒法ナリ、ト、思量スルハ、人ニ至リテモ、

此事ハ亦必上帝ハ是認スル所ナルヲ信スハ故ニ
外形賞罰ヲ全力ハ或ハ理勢ニ屬ス或ハ道德ニ屬ス
即チ一ハ上帝ニ出テ一ハ諸民ニ出テ人性能力ハ此
兩者ニ至公ノ熱心ヲ致ス者ト相合スルトキハ則チ
道德ノ世ニ認識セラレニ隨ヒ必利用說ノ道德ヲ
皇張スルヲ得ニク猶教育及ニ修養ノ使用此方向ニ
注スルヲ愈多ケレハ其勢亦愈強大ニ至ルヘキナリ
外形ノ主制ニ事ハ既ニ上ニ說ク所ニ如シ抑職分上
内面ノ主制ニ至リテハ其職分ノ定法ノ如何ヲ論セ
ス一ニ皆心中ノ感覺ヲ以テ本トシ心中ノ感覺トハ
凡ソ人職分ヲ犯毀スルトキ必自ラ覺ユヘキ多少痛

悔念ハ能ク道德ノ天性ヲ修養スルノ人ハ直
ニ此犯毀ヲ以テ宜ク做スヘカトサレノ事トシテ畏
避スルニ至ル者ヲ謂フ蓋此感覺タル若シ至公至正
ニシテ單純ナル職分ノ思想ニ出テ曾テ偏僻ノ狀矯
飾ノ態ヲ帶ヒサルトキハ是レ即チ良心ノ本質ト謂
フハシト雖モ所謂良心ノ人ニ存スルハ大率複雑ノ
形像ニ於テシ倚系ノ連帶物ノ爲ニ其單純ノ質ヲ包
蓋セラレハ或ハ憐恕ニ原ツキ或ハ愛好ニ原ツキ
或ハ恐懼ニ原ツキ或ハ信教ノ心ヨリシ或ハ幼時往
日ノ記念ヨリシ又或ハ自重ノ心他人ノ尊重ヲ冀フ
ノ心及ヒ自謙ノ心ヨリスル者アリ是ニ於テ右ノ如

キ非常ノ複雑ハ、則チ其他猶許多ノ例様アル人心ノ
傾向ニ因リ、道德職分ノ思想ニ、奥秘ナル質性ヲ付ス
ル所以ノ根元ト爲リ、而シテ諸人ヲシテ、此思想ハ怪
奇ナル律法ニ從ヒ、現時ノ經驗ノ以テ之ヲ興發スヘ
シト定メタル者ノ外、或ル意向ニ繫着スル能ハサル
ヲ信セシムル者モ、亦之ニ由レリ、然ルニ其約制力ニ
至リテハ、別ニ一塊ノ感覺ノ存立スルヲ要シ、此感覺
ハ則チ前ニ所謂凡ソ人正理ノ定法ヲ犯毀セントス
ルトキハ、必先ツ之ヲ破壊セサル可ラス、又若シ之ヲ
犯毀スルトキハ、後來多クハ悔悟ノ情ニ迫マラルヘ
キ所ノ者はナリ、以上所説ハ良心ノ本性根元ニ關シ、

其他猶何如ナル理論アリトモ、是レ特ニ其精旨ヲ盡
ス者ト謂フハシ、
是故ニ一切ノ道德説ノ終極主制ハ外形ノ意思ヲ除ク
ハ、總テ吾儕ノ心中ニ存セル諸察ノ感覺心志内ノ感
ニ係ルヲ以テ、利用ヲ以テ定法ト爲ス所ノ諸人ト雖
モ、此特異ナル定法ノ主制ハ何物ナルヤノ疑問ニ逢
ヒ、曾テ之カ爲ニ詰難セラレテ了ルヲ見ス、吾儕ハ之
ニ答ヘテ謂ハンノミ、曰ク亦他ノ道德定法ノ主制ト
同シク、人類良心ノ感覺即是ナリト、蓋此主制タルヤ
因テ以テ自ラ訴フヘキ良心ノ感覺ヲ具セサル人ヲ
約制スル人能力アラサルハ疑ナシト雖モ、此ノ如キ

ノ人、能ク利用説ノ道德ヨリハ、更ニ他説ノ道德ノ理
 曰、遵從スドシト謂フハ、亦必無ノ事ニシテ、何類ノ道
 徳説タリトモ、此人ヲ拘束スルハ、唯外形ノ主制ニ因
 ルヘキノミ、然ルニ此感覺ノ存セルヲ、元人類天性ノ
 常ナルヲ以テ、其確實ノ狀ト、能ク之ヲ修養セル人ヲ
 動スヘキ絶大ノ力トシ、等ク經驗ニ因テ之ヲ證ス可
 ク、而シテ其利用説ト連係スル者ハ、之ヲ修養シテ異
 常ノ強烈ニ至ラシムルヲ、他ノ道德規法ト連係スル
 者ノ如キヲ得サルノ理ハ、未曾テ之アラサルナリ、
 余ハ此ニ他ノ一説アルヲ知レリ、即チ其説ニ以爲ラ
 久、凡ソ人道德ノ職分ニ於テ、シテ事物ハ、自ラ事物ナリ、テ絶

省察ト相關セト云フ語ノ區域ニ屬セルラセキ、テ實則
 心志外ノ物アルヲ看破シ、能ク此超妙ノ情理ヲ悟
 リタル者ハ、此職分ハ、徒ニ人ノ知覺中ニ地位ヲ占メ、
 全ク省察ニ出テタリト信スル者ニ比スルニ、其之
 恪遵スルハ、情更ニ深カルヘシト、然ルニ余ヲ以テ之
 ヲ觀レバ、縱令或人ノ意見、果シテ此カ性理論ノ
 點ニ在ルモ、其人ノ實ニ催促セラレヘキ所以ノ勢力
 ハ、亦省察ノ感覺ニ外ナラスシテ、而カモ毎ニ之カ爲
 ニ裁制セラル、ニ至ルヘク、且凡ソ人職分ハ、遵依ノ
 實則ナルヲ信スルノ心、未曾テ上帝ハ、遵依ノ實則
 ナルヲ信スルノ強キニ如ク者アラス、而シテ此上

帝ヲ信スルノ心ト雖モ、實有賞罰ヲ望ムノ外ハ、亦唯
省察上ノ信教感覺ヨリ發シ、其多少ニ隨テ、諸人ノ舉
措ヲ管制スルニ過キサルノミ、故ニ所謂主制ナル者
ハ、苟モ之ヲシテ私心ニ出テサラシメハ、常ニ諸人ノ
心志内ニ存スヘキヲ以テ、彼ノ超妙ノ道德說者ハ、更
ニ左ノ言ヲ爲サ、ル可ラス、曰ク此主制ハ心志外ニ
於テ其根柢ヲ有スルニ非サレハ、應ニ心志内ニ於テ
永存スルコトナルヘク、而シテ若シ人自ラ吾ヲ限制
シ、及ヒ吾カ良心ト名ケラル、所ノ者ハ、特ニ吾カ心
志内ノ感覺ニ過キスト謂フ者アラハ、其人ハ必此感
覺停息スルトキハ、職分モ亦隨テ停息ストシ、又此感

覺ノ己ニ便ナラサルヲ見ルトキハ、之ヲ放棄シ、且之
ヲ規避スルヲ務ムルノ決心ヲ爲スニ至ルヘシト、嗚
呼、說者ハ此ノ如キノ危害ハ、特ニ利用說ノ道德ニ限
レリトスルカ、將タ道德ノ職分ハ、心志外ニ地位ヲ占
ムル者ナルコトヲ信スルハ、此感覺ヲシテ太強ニシテ
規避ヲ容ル可ラサルニ至ラシムヘシトスルカ、此ノ
如キノ論ハ、實ニ事情ニ濶ナルノ甚シキ者ニシテ、何
レノ道德說ニ在ルモ、其普通ノ人情ニ於テ、良心ノ閑
息淹殺セラルハ、ノ容易ナルヲ認視痛嘆セラル、等
ク常トスル所ナリ、抑我ハ宜ク吾カ良心ニ遵從セサ
ルヲ得サルヘキヤノ問辭ハ、未タ利用說ノ道理ヲ聽

カサル人モ、亦此道理ヲ信スル人モ、屢自ラ爲ニ發ス
ル所ノ者ト爲シ、而シテ良心ノ感覺薄弱ニシテ、此問
ヲ發スルニ至ルノ人ト雖モ、若シ自ラ之ニ答ハテ其
宜ク然ルハキヲ謂フ者アラハ、是レ超妙ノ理論ヲ信
スルノ効ニ非スシテ、唯能ク外形ノ主制ヲ知レルノ
故ニ因ルノミ、
職分ノ感覺ノ生知ニ出ツルカ、將タ繳養ニ出ツルカ
ヲ判定スルハ、今必シモ之ヲ緊要ナリトセス、設シ之
ヲ以テ生知ニ出ツル者トセンニ、此論ヲ助クルノ學
者ト雖モ、現今ニ至リテハ、亦直悟即チ生知ノ心會ハ
唯道德ノ本理ニ止リテ、其細目ニ及ハストノ説ニ歸

セシテ以テ、所謂生知ノ感覺ハ、元來如何ナル意向ニ
附着セルヤト謂フコト、固ヨリ當面ノ疑問ナリ、然ルニ
縱令果シテ實ニ生知ニ出ツルノ或物ヲ得タルモ、
此生知ノ感覺ハ、他人ノ痛苦ト快樂トニ關スル所ノ
感覺ニ非ズトハ、理アル可キス、而シテ余ハ直悟上ノ
職分ニ屬スル道德ノ理ハ、亦唯此感覺ニ外ナラサル
ハキヲ謂ハントス、洵ニ此ノ如クナレハ、直悟派ノ倫
常學ハ、能ク利用説ニ協和シ、其間復争隙無キルヲ
且縱令争隙アルモ、直悟派ノ道德說者ハ、總テ道德ノ
大分ハ、全ク邦國庶民ノ利益ヲ謀ルノ思慮存スル
ヲ固守セルヲ以テ、彼等ハ其他猶直悟スヘキ道德諸

職分アルヲ信セリト雖モ亦既ニ此感覺ハ則チ其職分ハ一ニ居ルコトヲ信シタルナリ故ニ道德職分ノ超妙ナル根元ヲ信スルコトヲ以テ内面ノ主制ニ増益ノ効驗ヲ與フル者トセハ余ハ利用説ノ道理既ニ能ク此裨益ヲ具フルヲ見ルナリ

前節ノ謂フ所ニ及シ若シ道德ノ感覺ヲシテ吾カ信スル所ノ説ノ如ク生知ニ非スシテ修學ニ出ツル者ナラシムルトモ之カ爲メ其天然物タルノ性ヲ減スルニ非ス蓋人ノ能ク説話シ推論シ城邑ヲ築造シ土田ヲ耕稼スルハ縱令修學ノ才能ナルモ猶其天然タルヲ失ハス夫ノ道德ノ感覺ニ至リテ何ソ獨リ然ラ

サラン亦唯吾儕諸人ノ顯然明視スヘキ天性ノ一部ナリト稱スルヲ得サルノミ然ルニ之ヲ以テ此ノ如キ天性ナリト稱スルコト所謂超妙ノ根元ナル者ヲ信スル最モ甚シキ人ノ許允スル所トナルハ豈ニ惜ムヘキニ非スヤ抑道德ノ才能ハ本前ニ舉クル所ノ其他修學ノ才能ノ如ク是レ天性ノ一部ナルニ非スシテ畢竟之ヨリ發シタル自然ノ成長ニ過キス而シテ之ヲ放擲スレハ僅ニ些少ノ級位ニ條暢シ之カ修養ヲ加フレハ則チ開達ノ高度ニ進入スヘキ者ナリ然ルニ此道德ノ才能ハ亦不幸ニシテ外形ノ主制ト先入ノ勢カトノ強迫ニ因リ如何ナル方向ニモ修養セ

ラル、コアリテ、此等外感ノ方術ヲ用ユルトキハ、之ヲシテ良心ノ權勢ヲ以テ人意ヲ制セシムルヲ能ハサルノ背理障害アルニ非ス、故ニ世若シ利用ノ道理ハ、縱令人類ノ天性中ニ基礎ヲ有セサルトキト雖モ、苟モ此ノ如キ外感ノ方術ヲ用ヒハ、亦均ク之ニ同等ノ能力ヲ與フヘキ者ナリトノ説ヲ疑フ者アルトモ、是レ一切ノ經驗ニ因リテ自ラ消散スヘキノ見ナルノミ、大意謂フ、利用説ト雖モ、亦道德ノ感覺ヲ以テ天性ニ出ツル者ト爲サハルニ非ス、唯直ニ之ヲ認テ天性ト爲サハルノ異ナルニ、而シテ此感覺ハ獨リ内面ノ主制ニ因ルノミナラス、亦外形ノ主制ニ因ルテ之ヲ修養スルヲ得ヘシト、然リト雖モ、此ノ如ク全ク人意ノ捏造ニ出テタル道

徳ノ聯合ハ、苟モ心術修良ノ進ムニ隨ヒ、漸次分離ノ勢ニ歸スヘキ者トス、蓋職分ノ感覺、利用説ト聯合セシト雖モ、兩者各自恣ニシテ相下ラサルトキ、若クハ其因テ以テ此聯合ヲ調和シ、吾儕ヲシテ其實ニ同一體ナルヲ知ラシメ、且特ニ他人(即チ吾人ノ之ニ對シテ多少圖利ノ意思アル所ノ者)ノ爲ニ之ヲ修ムルノミナラス、亦自己ノ爲ニ之ヲ養フニ至ラシムヘキ天性ノ統帥意見ノ主導アラサルトキ、即チ約シテ之ヲ言ハハ、利用道德ヲ行フヘキ天然意見ノ基址アラサルトキハ、縱令此聯合ハ教育ヲ以テ修養セラル、ノ後ニ在ルモ、亦皆分離ヲ受クルヲ數其例アルナリ、

抑此ニ有カナル天然意見ノ基址アリテ、凡ソ人一々
上公衆ノ幸福ヲ以テ、倫常學ノ定法ト爲スヘキヲ認
識セハ、必之ニ由リ以テ利用道德ノ勢カヲ立定スヘ
以此基址トハ他ニ非ス、即チ人民交際ノ感覺、邦國庶
民ト同胞一體ト爲ルヲ好ムノ情願ニシテ、固ヨリ天
性ノ公理ニ出テ、幸ニ顯明ノ教誨ナキモ、世道開進ノ
感化ニ因リテ、其力漸次強盛ニ赴ク者ナリ、而シテ交
際ノ情狀タルヤ、亦諸人苟モ非常ノ事態ニ於ルト、力
メテ恣意自退ヲ謀ルトノ外ハ、總テ自ラ之ニ由リ、之
ヲ用ヒ、之ヲ慣行スルコト、恰モ其身ヲ以テ社會全體ノ
一肢節ト爲ス者ノ如ク、猶此聯合ハ、人類タル者獷悍

不羈ノ陋俗ヲ脱スルニ隨ヒ、益親密ヲ加フルニ至ル
ヘク、誠ニ能ク此ノ如クナレハ、凡ソ交際至要ノ形况
ハ、各人ノ因テ以テ生息シ、以テ安心立命ノ地トスル
所ノ日用彝倫ノ固有物ト爲ルヘキコト疑ヲ容レズ、熟
今日人類ノ交際ヲ觀ルニ、主長ト奴隸トノ關係ヲ除
クノ外ハ、互ニ各人ノ利益ヲ商量スルノ道ヲ舍テ、
他ノ基礎ニ由ルノ行ハル可ラサルコト、瞭然トシテ知
ルヘク、同等人ノ交際ハ、特ニ其利益モ亦同等ニ着意
セラレヘキノ領悟ニ因テ成レリ、蓋世道開明ノ日ニ
至ルトキハ、一ノ專制君主ヲ除キ、各人皆同等ノ權ヲ
具スヘキヲ以テ、各人ハ諸人ト共ニ此規約ニ從フノ

責任ヲ負ヒ、猶其進步ハ年ヲ逐フテ著ルシク、復何人ニ交ルヲ論セス、他ノ規約ヲ永存スルヲ得サルノ勢ニ赴クヘシ、故ニ苟モ此道ニ由ルトキハ、人民ハ全然他人ノ利益ヲ放棄スルコトヲ以テ、宜ク爲スヲ得ヘキ者ト思惟スル能ハサルニ馴致シ、之カ爲メ、自ラ戒メテ一切ノ重大ナル禍害ヲ爲スコナク、且己ノ保護ノ爲メニハ居常此禍害ニ抗拒スルノ任ニ在ルヲ思惟シ、而シテ又他人ト相協カスルコト、及ヒ自ラ一己ノ利益ニ非サル公衆ノ利益ヲ以テ、其行爲ノ標的ト公言スルコト少クモ其當時ニ於テヲ熟知スヘク、人民既ニ相協カスルニ及ンテハ、其目的ハ、自ラ他人ノ目的ト

同視セラレ、是ニ於テ他人ノ利益ハ、即チ自己ノ利益ナリトノ一時ノ感覺アルヲ見ルナリ、若シ夫レ交際聯合ノ滋長ト、社會ノ健剛ナル發育トハ、則チ其請ル所更ニ深ク、常ニ各人ニ與フルニ、實施ニ於テ他人ノ幸福ヲ商量スヘキ身上ノ利益ヲ以テスルノミナラス、亦應ニ之ヲ導キ、其本心ノ感覺ヲシテ、次第ニ他人ノ福祉、或ハ之ヲ謀レル實施ノ考慮ト合同セシムルニ至ルハク、然ルトキハ、人民ハ自視テ本來他人ヲ愛重スヘキ者ナリト爲スコト、恰モ其天性ニ出ツルニ異ナラス、他人ノ福祉ハ、則チ此人ニ於テ必之ニ注意セサル可ラサル物トナルコト、其生存ノ常理ノ如クナル

へキナリ、然ルニ今日ト雖モ、若シ能ク此感覺ノ幾分
 ヲ具スル者アラハ、其人ハ必之ヲ表明シ、カヲ極テ之
 ヲ他人ニ獎勵スヘキ、最強ナル利益憐恕ノ意思ノ爲
 ニ催促セララルヘク、乃チ此感覺ヲ具セサル人ニ至リ
 テモ、亦應ニ他人之ヲ具スルヲ以テ、大ニ己ニ益ア
 リト爲スヘシ、是故ニ此感覺ノ最小萌芽ハ、憐恕ノ感
 染ト、教育ノ薰陶トニ因テ、扶植長養セラレ、且モキスニナルカシク外形主
 義ノ勢力ニ因テ、其周邊ニ固結聯合ノ皮膜ヲ織成セ
 ラル、者ニシテ、吾儕諸人ノ自ラ此ノ如ク思惟スル
 ノ模様ハ、開明ノ進ムニ隨ヒ、次第ニ其自然ノ性トナ
 リ、即チ政法ノ更革ニ於テハ、每歩常ニ利益ニ反スル

ノ諸源ヲ除去シ、又人類ノ大衆ヲシテ、其幸福ヲ放棄
 セラル、ニ至ラシムル所ノ、各人各族ノ間ニ存セル
 律法特權ノ不平等ヲ鏟削スルコトニ因テ、能ク此事ア
 ルヲ致シ、猶人心更革ノ形狀ニ至リテハ、則チ各人ヲ
 シテ諸民ト同胞一體ナルノ感覺ヲ滋息セシムルノ
 風化無窮ニ増益シ、苟モ此感覺ノ完全ナル、亦彼ヲシ
 テ諸民ノ利益ヲ包含セサル所ノ者ヲ以テ、自己ノ利
 益ト爲シテ、之ヲ願欲スルコト無カラシムヘシ、今若シ
 假ニ此同胞一體ノ感覺ヲ以テ宗教ト爲シテ人ニ誨
 ヘ、且教育法令言論ノ全カヲシテ、其曾テ宗教ニ關セ
 シトキノ如ク、幼少ヨリ成長ニ及フマテ、一ニ此説ノ

聲明習行ヲ以テ其諸面ヲ圍繞スルニ用ヒシムルノ
 事アリトセハ、余ハ此意會ヲ體察スヘキノ人ハ、必幸
 福ノ道德即チ利用ニ於テ終極主制ノ備具セルヲ疑
 フ者アラサルヲ度リ、偶其體察ノ難キヲ謂ヘル倫常
 學者アルトモ、余ハ應ニ之ヲシテ其易キヲ知ラシム
 ルカ爲メ、コント氏ノ佛國近代ノ二大著ノ一ナル、シス
 テム、ド、ポリチツク、ホシチー、名書ヲ贊揚スヘキナリ、
 蓋余ハ此書ノ論說中、政治道德ノ諸學ニ對シテ、至強
 ノ辨駁ヲ顯ハセルヲ悦ヒ、特ニ其憾ム所ノ者ハ、宗教
 ノ實カト化効トヲ以テ、一切天道信賴ノ助ヲ假ラス
 シテ宜ク人智ノ作爲ニ任スヘキ者ト爲ス、誇大ニ

過キ、又專ラ人生ノ事ニ執着シテ、其心思感覺行爲ヲ
 粉飾シ、以テ往日宗教ニ因テ實行セラレシ所ノ最大
 權勢ヲ望ムモ、徒ニ空想妄期ニ屬シ、其危險ハ孱弱振
 ハサルニ在ルニ非スシテ、却テ人類ノ自主自由ヲ以
 テ干與スルノ過甚ナルニ在ル等、是ナリトスルノミ、
 凡ソ利用道德ヲ認識シタル人ニ於テ、自ラ此說ノ約
 制カアルヘキヲ知ルノ感覺ハ、必シモ其職分ノ一般
 人民ニ知ラルヘキ交際ノ風化ヲ待ツヲ要スルニ非
 ス、現今吾儕ノ生存セル、人間進歩猶淺キノ日ニ於テ
 ハ、人民タル者固ヨリ未タ其終生舉措ノ方向中、真成
 ノ不知ヲシテ行ハレサラシムヘキ自他憐怒ノ義ヲ

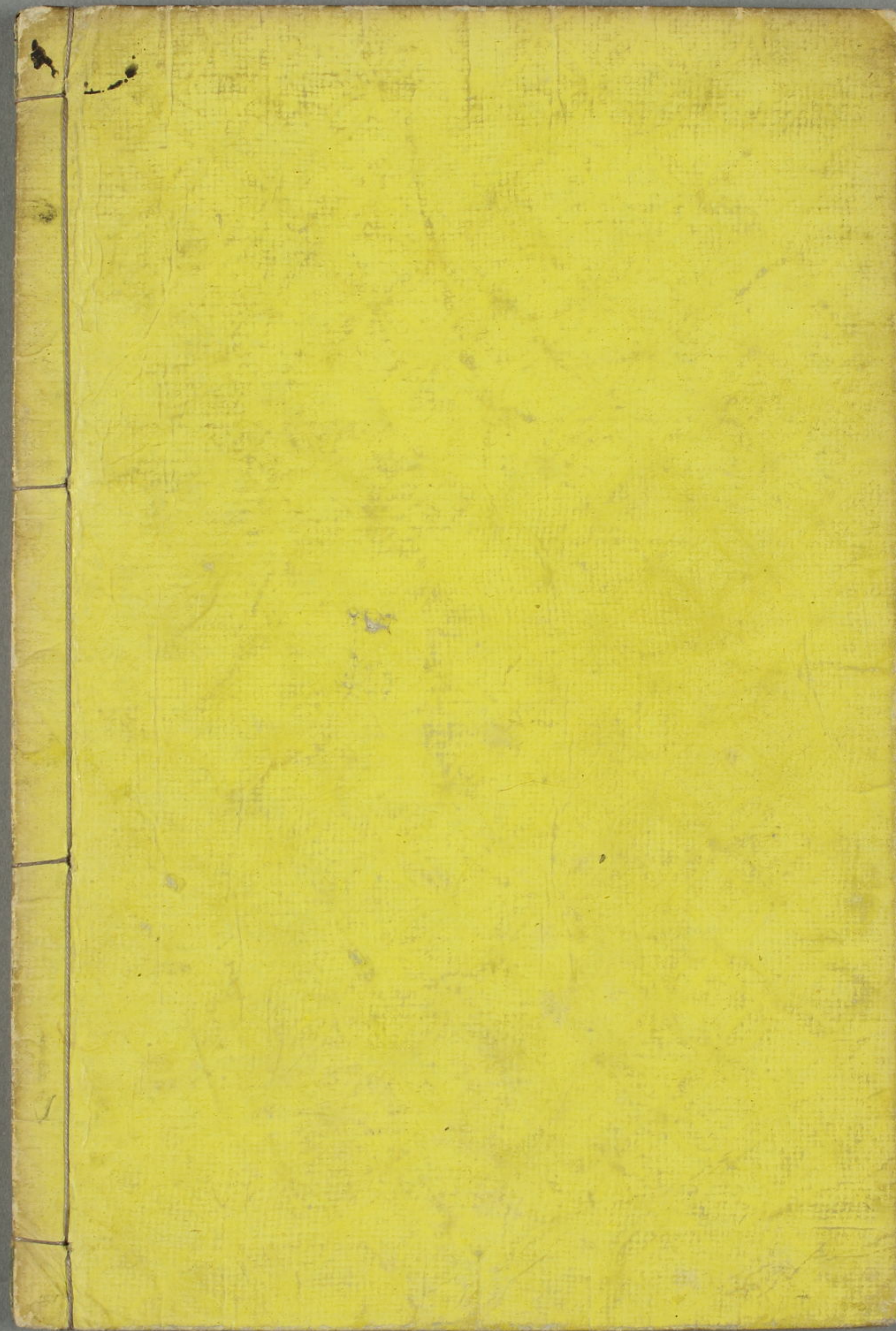
悟ル能ハス然レモ能ク其交際ノ感覺ヲ開達シタル
 人ハ亦他ノ邦國庶民ヲ視テ己ニ對スル幸福ノ競争
 者ト爲シ己ノ意向ノ成ルヲ欲スルカタメ彼ノ意向
 ノ敗ルヲ願フ者アラサルナリ蓋今日ト雖モ各人
 ノ自ラ社會ノ一人トシテ具シタル根柢ノ主意ハ之
 ヲシテ己ノ感覺志向ト庶民ノ感覺志向トハ常ニ相
 諧和スヘキ其天然緊要ノ則タルヲ知ラシメ而シ
 テ縱令言論性行ノ差異ニ因リ亦之ヲシテ此實有感
 覺ノ許多ヲ分取スル能ハサラシムルコトアルモ或ハ
 恐クハ之ヲシテ此感覺ヲ輕賤蔑視セシムルコトアル
 モ各人ハ猶其己ト庶民トノ真成ノ志向ニ至リテハ

曾テ相抵觸セサルヲ覺リ庶民ノ真ニ欲スル所ノ福
 祉ニ抗逆スルヲ爲サシテ却テ之ヲ增益スルヲ爲
 スヘシ抑此ノ如キノ感覺ハ最多數ノ人ニ於テ其力
 遙ニ私欲ノ感覺ニ劣リ又往々盡ク之ヲ缺ク者アリ
 ト雖モ苟モ之ヲ具スルノ人ニ至リテハ則チ天然感
 覺ノ諸質ヲ備ヘ其心ニ浸染セルキ教育ニ因テ得タ
 ル妄信ヲ如ク然ルニ非ズ社會ノ力ニ因テ強施セル
 律法ノ如ク然ルニ非ズ唯自ラ以テ之レ無レハ不可
 成ルトスル屬質ノ如ク然ラナリ故ニ右ノ確徴ハ所
 謂最大幸福ノ道德ノ終極主制並謂テヘク而シテ其
 能ク感覺ヲ開達シタル心志ヲシテ余カ前ニ外形主

制ト稱セシ所ノ者ヨリ生シタル他人照顧ノ意思ニ
 逆スサルノミナラス、却テ之ト並ニ行ハレシメ、且此
 外形主制ノ缺乏シ、或ハ反對ノ方向ニ動クニ會スル
 至、質性ハ穎敏謹慎非準シテ、自ラ強盛ナル内面ノ約
 制力ヲ造成セシムヘキ所以會者ハ、是ハ心志ノ道德
 ニ空疎ナル諸人ニ非サルヨリハ、其生活ノ道ヲ謀ル
 一、唯自己ノ利益ヲ爲ニ迫促セラル、ノ外、一切他人
 ニ関セサルハキノ計畫ヲ用ニル者、蓋極テ少キニ由
 ルト云ク、此ハ、（以下は非常に淡く、ほとんど不可読な文字が並ぶ）

利用論卷之上終

要諦 報録



英國彌爾氏原著
日本澀谷啟藏譯

利用論

明治十三年三月開雕

